

# 教育研究業績書

2017年10月20日

所属：日本語日本文学科

資格：教授

氏名：平井 尊士

研究分野	研究内容のキーワード
図書館情報学（言語情報・文献管理学）、情報メディア学、教育工学、図書館計画（PFI施策含）、真言密教（原始仏教）	学術情報の流通、教育評価（アクティブ・ラーニング含）、情報基盤、行政施策（PFI、業務委託）、真言密教（原始仏教）
学位	最終学歴
文学修士（図書館情報学）、文学士（密教学（原始仏教学）、僧侶（真言宗））	高野山大学文学部仏教学科卒業（原始仏教（密教）専攻/真言宗僧侶（住職資格取得）、筑波大学大学院博士後期課程単位取得満期退学（情報マネジメント専攻）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 武庫川女子大学（武庫女）スマートキャンパス計画	2016年9月～現在	2016年9月よりスマートキャンパス計画（クラウドサービスmwu.jp, ポリシーの180度転換, ICT最先端計画, ICTミニ講座の4つの柱）の立ち上げメンバーとして、センター長の元、3人の常任委員および研究員の1人として参画。2016年9月サービス開始、2017年4月規定整備のために現在構築・実施中。
2. 情報リテラシー教育（IおよびII）	2016年4月～現在	旧情報リテラシー教育（IおよびII）について、学院全体のICT化方針に基づき、情報教育研究センター常任委員として改革方針に基づき、全学の調整を実施。特に2017年度の方向について学科間との調整をほぼ完了。また大日及び短日について就職・資格取得のために授業内容を変更。（2016年後期より実施）
3. 図書館司書課程（武庫川女子大学）	2012年4月～現在	（受講生）全学部対象、受講生数（約150から200名/年） （全体概要）2012年度設置する新課程科目として開講した。新課程科目の主担当（責任者）として認定。（文部科学省生涯学習政策局長：2012年（平成24年）3月15日付け（学内指定公文書：平成23年12月1日武学指発249号の届出） （担当）（平成23年度）主責任者として申請業務、申請のためのカリキュラム作成、シラバスの検討、非常勤講師の手配、授業運営、（平成24～25年度）旧・新カリキュラムの実施と検証、（平成26年度～現在）主責任者： <b>平井尊士</b> 、副責任者：設楽馨、図書館担当：河内鏡太郎、川崎安子で運営、 （大学において）図書館運営委員（司書担当）（担当部署：附属図書館）
4. 学校図書館司書教諭課程（武庫川女子大学）	2012年4月～現在	（全体概要）図書館司書課程と同様。 （担当）主責任者： <b>平井尊士</b> 、副責任者：設楽馨、 （大学において担当部署：教職支援室）
5. 演習1・2, 卒業研究	2012年4月～現在	（全体概要）2012年度年から本科目を担当。2012年度ゼミ生15名、2013年度ゼミ生17名、2014年度ゼミ生17名、2015年度ゼミ生16名、2016年度ゼミ生17名を担当。能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れ、産学連携にて授業・研究を实践。また言語情報・文献管理研究室として、企業協同で、図書館や学院整備ビデオなども制作・上映を実施する。毎年、ゼミ生で京都研修（夏から秋）（日本文化体験（神社仏閣、和など））、企業訪問（冬）（日本HP社、NSD東京本社、紀伊国屋書店、日本オラクル）等を見学。
6. 学校図書館メディアの構成（放送大学）	2012年4月～現在	（全体概要）主任講師（客員准教授）として本科目を担当（主任講師 北克一・ <b>平井尊士</b> ）。放送大学の主の教育方法として、通信教育による通信指導および単位認定に加え、履修システム（WAKABA）を利用した双方向型e-Learningシステムを用い教育研究を実施。
7. 情報基礎教育（全学共通）（武庫川女子大学）	2012年4月～2016年3月	2014（平成26）年度から多数の学科で実施している「情報リテラシー2」について、学科科目の位置づけとなる。非常勤講師の手配、学習内容の検討、シラバスの検討などを実施する。併せて2015年度から実施する「情報リテラシー1」については、全学委託業者から、非常勤講師に置き換えるための様々な検討を情報処理教育研究センター常任委員として実施する。2016年度からはアクティブ・ラーニング型授業の実施を検討中。
8. 学科専門（3系：言語情報処理コース）情報系科目	2011年4月～現在	（全体概要）授業・演習は、ICTの技能指導だけでなく、課題を多く課し、思考力を深めさせるよう努める。学内外の様々なICT環境を利活用して、双方向にかつスムーズに実施できるように配慮した。2016年（平成28年度）からはアクティブ・ラーニングを促進するハイブリッド型授業を推進する。 （科目）コンピュータ概論、プログラミング1・2、情報科学1・2、情報検索など。
9. 保健統計入門（管理栄養士対応）・医療福祉統計（	2008年4月～現在	（全体概要）兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
看護士対応)		においては統計学、看護学科においては国家試験対策の範囲(疫学・統計学)を担当。学内システム(新統合HUMAN S教育研究システム)を在職時に構築・導入し、双方向型の授業を実施する。
10. 情報教育の基礎	2004年4月～2011年3月	(全体概要) 兵庫大学情報基礎教育である「コンピュータ演習」(全学共通)を担当。技術的な利用方法とコミュニケーション能力の向上に視点を注ぎ実践。新システムの構築を構築し、双方向的な授業を実践。初年次教育の位置づけとしても実施。2006年度からはeラーニングのシステムについても導入を図り、精力的に授業を実施。
11. 教育方法・技術論(教育工学)	2004年4月～2011年3月	(全体概要) 兵庫大学教職科目の1つである教育方法論と教育工学を統合した科目を担当(文部科学省科目担当者認定)。従来の教授学習理論に加え、ICTの活用を取り入れた実習を実施。主にID(インストラクショナル・デザイン)技法を取り入れた授業を展開する。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. PC・ネットワーク利用ガイド「テクニカルガイド」(兵庫大学)	2009年3月	(全体概要) 情報メディアセンターICT教育課がサービスしている技術的な内容を簡易版に編集。全11頁 (担当: 編集・作成, 情報メディアセンターICT教育課(課長として推進)。
2. インフォメーション・リテラシー兵庫大学HUMANSハンドブック(兵庫大学)	2004年10月	(全体概要) 情報処理センター業務(管理職として)の1つとして学内コンピュータシステムおよびノート型パソコン等の利用活用方法について執筆。全140頁 (担当: 編集: 河野稔)(監修: 角所収) (著者名: 河野稔, 平井尊士, 佐竹邦子, 森下博)
3. コンピュータガイドブック1999(兵庫大学)	1999年4月	(全体概要) 情報処理センター業務(管理職として)にて学内コンピュータシステムおよびノート型パソコン等の利用活用方法について執筆。全251頁 (編集: 河野稔)(監修: 角所収) (著者名: 河野稔, 平井尊士, 佐竹邦子, 森下博)
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 第10回スタートアップ支援講座「いまさら聞けない統計データ分析ーアドイン機能を有効に利用する」	2016年7月29日	武庫川女子大学女性研究者支援センター主催。毎年行われている「統計学セミナー」の基礎編の講師を実施。学内の若手研究者及び大学院生のために実施。
2. 2016年度学校法人向けセミナー「将来を見据えた施設計画・リニューアル」講師	2016年10月12日	竹中工務店主催。(内容) グローバル化や少子高齢化等の急激な社会の変化の中で、学校施設運営者や経営者の皆様対象に、最新情報のご提供と課題を共有する場として、表題のセミナーが企画され、1セッションの講師を担当。 (講演テーマ) 「武庫川女子大学中央キャンパスの整備計画と利活用」～女子大生にとって居心地のいいキャンパスづくりへの挑戦～
3. 統計学セミナー講師「統計(データ分析)と実験計画法入門」	2015年2月23日	文部科学省科学技術人材育成費補助金、女性研究者研究活動支援事業(武庫川女子大学女性研究者支援センター)として、第7回スタートアップ支援講座として実施。
4. 平成25年度稲美町女性セミナー講師	2014年2月23日	(主催) 兵庫県稲美町いきがい創造センター (研修会名) 女性セミナー (概要) 女性がいきいきと輝くために (対象) 稲美町在住の女性
5. 武庫川女子大学の歩みとそれを支えるICTの現在と未来	2014年12月11日	武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部のICT設備導入と今後の計画について講演(NTT西日本主催)
6. 陸上自衛隊中部方面総監部 栄養専門館 統計講師	2013年6月1日	(主催) 陸上自衛隊中部方面総監部 栄養専門館 (研修会名) 栄養専門館 統計研修 (概要) 栄養学における統計処理 (対象) 中部方面エリアにおける栄養専門官
7. 兵庫県栄養士会平成24年度生涯学習研修会講師	2012年9月2日	(主催) 兵庫県栄養士会 (研修会名) 平成24年度生涯学習研修会 (概要) 統計入門 (場所) 神戸女子大学
8. 業務効率化とクラウド活用: 大学経営改革におけるシステム・教育のあり方について	2012年9月18日	京都大学(NTT西日本主催)にて、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部の情報教育改革の元年以降の学内の整備方針と整備状況、そして今後について講演。
9. NPO法人姫路シニアネット学習会講師	2012年3月16日	(主催) 兵庫県中播磨県民局中播磨消費生活創造センター (研修会名) NPO法人姫路シニアネット学習会 (概要) インターネットで被害にあわないために (場所) 兵庫県中播磨県民局中播磨消費生活創造センター
10. 社団法人兵庫県栄養士会「講演とワークショップ」講師	2011年11月19日	(主催) 兵庫県栄養士会 (研修会名) 「講演とワークショップ」 (概要) 栄養士・管理栄養士に必要な統計って何? データを有効活用しましょう (場所) 武庫川女子大学
11. 神戸市立井吹西小学校「分かる授業研究指定校」	2008年8月	(主催) 神戸市教育委員会

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
夏季研修講師		(研修会名)神戸市「分かる授業研究指定校」研修会 (概要) ICTを活用した教材の活用方法 (対象) 神戸市立井吹西小学校教師
12. 神戸市立高羽小学校夏期研修講師	2008年8月	(主催) 神戸市立高羽小学校 (研修会名) 校内研修 (概要) ICTを活用した教材について (対象) 神戸市立高羽小学校教師
13. 町田市教育委員会「授業力・教育課題研修会」講師	2008年8月	(主催) 町田市教育委員会 (研修会名) 授業力・教育課題研修 (概要) 教材開発「デジタルコンテンツの作成とリソースネットの活用」 (場所) 桜美林大学 (対象) 町田市立小・中学校教諭
14. 町田市教育センター教材開発講師	2008年7月25日～2014年8月26日	(主催) 町田市教育委員会・町田市教育センター (研修会名) ICTを活用した教材の開発と活用方法 (概要) 教材開発「デジタルコンテンツの作成とリソースネットの活用」 (場所) 町田市教育センター (対象) 町田市立小・中学校教諭
15. 町田市立木曾境川小学校 校内研修会 講師	2008年7月	(主催) 町田市教育センター・町田市立木曾境川小学校 (研修会名) 校内研修 (概要) ICTを活用した算数授業について (場所) 町田市立木曾境川小学校 (対象) 町田市立木曾境川小学校教諭
16. 神戸市教育委員会 平成20年度課題研修講座「情報教育・情報メディア活用」講師	2008年6月	(主催) 神戸市教育委員会・神戸氏総合教育センター (講座テーマ) 情報教育総論 (講演タイトル) 楽しく進めるICT活用授業 (対象) 神戸市立学校教員320名
17. 兵庫県私立学校図書館協議会 研究会講師	2008年5月	(主催) 兵庫県私立学校図書館協議会 (全体概要) 教育の情報化を推進する上で教員のICT活用指導力の向上が急務である。加古川市は「教材研究や授業準備にICTを活用する能力」「授業にICTを活用して指導する能力」「児童生徒のICT活用を指導する能力」の育成に重点を置いた研修を企画・実施。
18. 加古川市「情報教育・視聴覚教育合同研修会」講師	2008年3月	(主催) 加古川市教育委員会 (概要) 教育の情報化を推進する上で教員のICT活用指導力の向上が急務である。とりわけ加古川市においては、「教材研究や授業準備にICTを活用する能力」「授業にICTを活用して指導する能力」「児童生徒のICT活用を指導する能力」の育成に重点を置いた研修を企画することを重点においたデジタルコンテンツの作り方と利用法について講演を実施した。
19. 平成19年度 文部科学省委託事業 ICT活用の効果に関するフォーラム 講師	2008年3月	(主催など) 財団法人コンピュータ教育開発センター、神戸市教育委員会、共催：独立行政法人メディア教育開発センター、後援：神戸市PTA協議会 (全体概要) 「ネット時代の子どもを育てる：学校と家庭で進めるICT教育」をテーマにパネルディスカッションのコーディネーターをつとめる。(パネラー)：梶本佳照(三木市立教育センター所長)、西村茂(神戸市立中学校校長)、富永和也(神戸市PTA協議会副会長) 平井尊士
20. 東京都教育次長(部長)会研修会 講師	2008年2月	(主催) 東京都町田市教育委員会 (開催場所) 町田市教育センター (研修内容) 教材開発ミッションおよび授業へのIT活用について (事務局) 町田市教育センター研修担当
21. 「授業力・教育課題研修会」講師	2007年8月	(主催) 東京都町田市教育センター、(開催場所) 玉川大学 (全体概要) 研修会名：授業力・教育課題研修、内容：教科等研修会Ⅳとして教材開発「だれでもできるデジタルコンテンツ」 (対象) 町田市立小・中学校教諭
22. 2007年度 第1回情報教育推進協議会 講師	2007年7月	(主催) 東京都町田市教育委員会、開催場所) 町田市立町田第4小学校 (講演内容) ICTを活用した教科教育での学習効果 (全体概要) テーマに沿い、神戸市立小学校で平成18年度に実施した研究成果について、「算数科コース別学習におけるコンテンツ活用とその効果」と称し、講演および実習を実施した。(事務局) 町田市教育委員会指導課
23. 神戸市教育委員会・授業づくり支援室：大好きやねん！神戸ICTを活用したら分かる授業研究会 最終報告会 講師	2007年2月	(主催) 神戸市教育委員会・神戸市総合教育センター (概要) 平成18年度「授業づくり支援室」「大好きやねん！神戸ICTを活用したら分かる授業研究会」で実施してきた実証授業の補助、ネットワーク活用、ICT活用、教育効果等について、研究会に参加している各組織(各立場)からの実践報告とそのとりまとめを行う。また平成19年度以降のICTを活用した「分かる授業」実践への示唆も提示する。

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
24. New Education Expo2006 講師	2006年6月	(講演セッション) 015 「ICT・ネットワークを利活用した先進的な実践事例」セッション (講演テーマ) 「更に発展継続：大好きやねん！神戸ICTを活用したら授業がもっとわかった」プロジェクト事業報告 (講演者) <b>平井尊士</b> 、吉田和正
25. 平成17年度神戸市教育委員会最終報告会「大好きやねん！神戸：市内小中学校における活用効果検証報告」講師	2006年3月	(講演テーマ) ICTを活用した分かる授業の効果について、(開催場所) 開催場所：科学技術館4階ユニバースホール、(開催機関) 主催：神戸市教育委員会、共催：(独)メディア教育開発センター、協力：(株)NTTデータ (対象) 文部科学省、自治体・教育委員会、学校教員、関係団体、教育関連企業、報道関係、その他教育関係者 <a href="http://www.kobe-c.ed.jp/loverika/ict/index.html">http://www.kobe-c.ed.jp/loverika/ict/index.html</a> に掲載
26. 平成18年度生涯学級講師	2006年10月	(概要) 神戸市清風公民館主催：受講生35名に対し実施。 (概要) インターネットの光と影、インターネットの功罪について、事例を交え、研修会を実施。
27. 神戸市小学校教育研究部理科部平成17年度「理科大好き講演会」研修会 講師	2006年1月	(研修テーマ) わかる授業にITは有効か？ (開催場所) 神戸市立竹の台小学校 (概要) 文部科学省主催まなびピアと同様
28. 平成17年度 神戸市立菅の台小学校校内研修会 講師	2005年8月	(研修テーマ) 理科大好きやねん！神戸におけるコンピュータやデジタルコンテンツを使った授業の取組み (開催場所) 神戸市立菅の台小学校 (概要) 小学校8校、中学校4校、高等学校2校で実践研究を実施。その概要、方法などについて報告。
29. 平成16年度大阪府八尾市情報教育担当者研修会 講師	2005年3月	(テーマ) 学校における「デジタルコンテンツを使った授業」の普及 (概要) 経済産業省の補助事業として、情報基盤整備を実施した。さらに日本科学技術振興事業団(JST)と共同研究契約を締結。その1事業として、デジタルコンテンツを教科科目などの実施を推奨。その方法論について指導した。
30. 平成17年度 まなびピア (e-スクール) 講師 (文部科学省主催)	2005年10月	(テーマ・概要) 学習効果の上がる「ICT活用授業」について、本発表内容は、産学官連携イノベーション創出事業「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォームの研究」(文部科学省)の研究成果の1部である。 (担当部分概要) プロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など (発表者名) NTTデータ、神戸市教育委員会、理化学研究所計算宇宙物理研究室、筑波大学大学院(植松貞夫)、兵庫大学( <b>平井尊士</b> )
31. 神戸市小学校教育研究部理科部研究会 講師	2005年1月	(講演テーマ) 神戸市教育委員会「デジタルコンテンツの有効活用と学習指導方法の工夫・改善：理科大好きやねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用」研究会の活動を通して (開催場所) 神戸市立糺台小学校 あじさい教室
32. 神戸市総合教育センター平成16年度課題研修「授業に活かすコンピュータ実践」Ⅲ研修会 講師	2005年1月	(研修テーマ) デジタルコンテンツの有効活用と学習指導方法の工夫・改善
33. 近畿地区教育研究(修)所連携加盟機関 情報教育 研修 講座講師	2004年9月	(研修テーマ) デジタルコンテンツの開発・活用から普及へ (開催場所) 神戸市総合教育センター (参加(機関)) 近畿地区教育研究(修)所連盟加盟機関、神戸市教育総合センター (配布資料) 講演資料、参加者名簿、近畿地区情報教育部会調査資料、運営調査資料、「きょういくの風」(神戸市総合教育センター刊行)
34. 神戸市総合教育センター(神戸市教育委員会)平成16年度教科等に役立つ情報教育活用研修講座 講師	2004年7月	(講座名) 平成16年度教科等に役立つ教育情報活用研修講座
35. 神戸市総合教育センター(神戸市教育委員会)平成15年度課題研修講座「情報教育」研修会 講師	2004年2月	(講座名) 授業に活かすコンピュータ実践(小)Ⅳ(概要) 市内公立小学校教諭を対象に授業に活かすコンピュータ実践において研修会講師を担当。具体的な内容は、神戸市で情報教育について実施している取り組み内容や指針を研修生に指導した。
36. 兵庫県マルチメディア協議会研究会 講師	2004年12月	(講演テーマ) 「理科大好きやねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用」研究会の取り組みと学習指導方法の工夫改善モデル策定にむけて (開催場所) 兵庫県立神戸学習プラザ
37. 第18回神戸市視聴覚教育研究大会指導助言 講師	2004年11月	(テーマ) 「メディアを活用したわかる授業・楽しい学校づくり」 (指導助言グループ) 指導助言(授業実践交流会高学年グループ) (開催場所) 神戸市立有野台小学校
38. 第3回指導者・ネットワーク管理者研修講座(情報教育講師団研修) 研修講師	2004年11月	(研修テーマ) 神戸市教育委員会での取り組み「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォーム」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
39. 平成16年度まなびピア (e-スクール) 講師 (文部科学省)	2004年10月	<p>の研究開発と学習指導の工夫改善モデル策定のための実践授業と評価 (開催場所) 明石市生涯学習センター</p> <p>(テーマ) デジタルコンテンツの効果的な活用について (発表者名) NTTデータ、神戸市教育委員会、理化学研究所成崎計算宇宙物理研究室、筑波大学大学院 (植松貞夫)、兵庫大学 (平井尊士)</p> <p>(全体概要) 産学官連携イノベーション創出事業「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォームの研究」(文部科学省)の研究成果の1部である。成果の1部は公開。http://atlas.riken.jp/kobeにて掲載。 (担当部分) プロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など</p>
40. 平成15年度まなびピア (e-スクール) 講師 (文部科学省)	2003年11月～2003年12月	<p>(テーマ) 教科理科と総合的な学習の時間でのITツールの活用 (全体概要) 文部科学省ではIT国家を担う子どもたちの学習の成果を、広く一般に紹介することを通じ学校教育の情報化を一層促進するためNHK・NTTグループと共催で開催。教科で有効に機能するデジタルコンテンツ流通のしくみについて筆者を中心に実践授業を通して教育研究を実施。成果の1つを神戸市教育委員会、市内公立の3小学校共同で、報告を行った。</p>
41. 加古川市教育委員会 マルチメディアを活用した授業のあり方研修講座 講師	2002年8月	<p>(全体概要) インターネットと光と影の部分について『インターネットの効果的な活用と有害情報への対応』と称し、研修を実施。具体的には現在の初等教育機関における現状や国立教育政策研究所教育情報ナショナルセンターの取り組みなどについても交えながら実習を兼ね研修を実施した。</p>
42. 加古川市教育委員会 マルチメディアを活用した授業のあり方研修講座 講師 (アドバイザー)	2002年7月	<p>(全体概要) 新学習指導要領の本格実施に伴い、学校ではICTを活用した授業が増えはじめている為、活用方法の指導を実施。実際パソコンを活用して授業ができる教師の割合が半分に満たない状況下であるが、具体的な活用事例が望まれている。本講座では、総論的な内容、年間の取り組み計画などの研修を実施。</p>
43. 2002年度先進学習基盤協議会(経済産業省) : コンテンツ部会学校LOM (Learning Object Metadata) 利用促進WG座長	2002年6月～2003年3月	<p>(主催) 先進学習基盤協議会(Advanced Learning Infrastructure Consortium) (経済産業省他) (URL:http://www.alic.gr.jp/を参照) (全体概要) 座長として、2002年度のWG(ワーキンググループ)の活動は学校LOMについての利用促進のためSCORMver. 1.2、メタデータ、コンテンツの表示項目などを検討しガイドブック作成を運営企画、取りまとめを実施。</p>
44. 大阪府高等学校学校図書館研究会司書部・研修会 講師	2002年5月	<p>(研修会テーマ) 平成14年度入門講座 1.「学校図書館概論」2.「資料組織法」(講演概要) 本講演では、ネットワークの光と影、学校図書館システムの実践例について学校図書館法や図書館法や教育関係の諸法規を踏まえ教育行政の情報基盤の進捗について研修会を実施した。 (担当部分) 中等教育機関(高等学校)における学校図書館・校内を取り巻く教育環境のシステム化の現状と開発サイドとの認識の差異についての調査の実施及び分析について担当。講演者: 志保田務、平井尊士</p>
45. 加古川市情報教育担当者 研修会アドバイザー	2001年8月	<p>(担当) アドバイザー (全体概要) 21世紀の学校現場の著作権について、山本順一氏(図書館情報大学院教授)を講師に迎え、実際に加古川市教育委員会関係者及び市内小学校教諭と共に、アドバイザーとして研修会をコーディネートした。</p>
46. 大阪府高等学校学校図書館研究会司書部・研修会 講師	2001年8月	<p>(概要) 本講演では、21世紀の学校図書館の機能と役割について論じた。学校図書館の「コンピュータの利用規程」について比較検討した。さらに文部科学省の指針である「新しい時代に対応した学校図書館の施設・環境づくり」について議論した。 (担当部分) 平成12年度に引き続き、システムの分析およびネットワークの現状について担当。 (講演者: 志保田務、平井尊士)</p>
47. 秋田県日本青年会議所 研修会講師	2001年11月	<p>(講演テーマ) IT時代と子供達～心の成長を考える: 持続可能な社会のために 調和: 明るくい豊かな未来のために～ (パネリスト: 小川幸男(秋田大学)、平井尊士) (概要) 本講演では情報技術と児童心理学の両面から今後の教育の方向性についてパネルディスカッションを行った。</p>
48. 大阪府高等学校学校図書館研究会司書部・研修会 講師	2000年2月	<p>(研修テーマ) 図書館司書に情報技術の理解はどの程度必要か講演 (全体概要) 大学図書館員(専門職司書)にICTの理解の必要性を課題に、大学図書館をとりまく現状をふまえながら論じた。具体的に、大学図書館の役割、大学図書館サービス、電子化などの事例を取り入れ研修を実施。</p>
49. 平成11年度兵庫県私立学校図書館協議会(司書部)	2000年2月	<p>(研修テーマ) 学校図書館の情報化傾向について</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
会) 研修会 講師		(概要) 1990年代規制緩和に基き学校関係では情報図書館への関心が高まっている。具体的に「情報」科目の設置「メディアセンター論」の高まりがある。本研修会では図書館に関する最近の法令改正を瞥見し関連事項について研修を実施した。 (担当部分) 学校図書館のシステム化の現状調査、分析および簡易なモデル化の提示を担当。 (講演: 志保田務、 <b>平井尊士</b> )
50. 『新たな時代に向けた教職課程改革』 桃山学院大学平成12年度共同研究活動研修会 講師	2000年11月	(研修テーマ) 桃山学院大学での“情報”免許申請の可能性について (全体概要) 本研修会では、情報の免許に関する今後の可能性について他大学の教職課程情報と比較しながら対応方法を示唆し情報教育のカリキュラムの検討および提言を実施。
51. INFOSTA (情報科学技術協会) シンポジウム' 99in 関西 座長(情報教育・情報共有)	1999年6月	(セッション名) 座長:Cセッション座長 (テーマ: 情報教育・情報共有) (全体概要) 本セッションは、公立図書館・大学図書館におけるの情報サービスのあり方および専門職の評価についての各種発表のコーディネータをつとめた。
52. 平成11年度大阪府府立学校図書館研修会 講師	1997年7月	(テーマ) 「図書の整理」から「メディアの構成」 (全体概要) 1990年代、規制緩和に伴い、学校関係では情報の必要性が向上。本研修会では、図書館に関する法令改正を瞥見し、関連事項について指導した。 (担当部分) 学校図書館のシステム化の現状調査、分析および簡易なモデル化の提示を担当。(講演: 志保田務、 <b>平井尊士</b> )
53. IBM ユーザ会研修会 講師	1997年7月	(タイトル) 人文・社会科学系大学における教学情報システムの構築 (全体概要) 教学情報システムについて、事例を含め、情報処理センターのあり方、事務系ネットワークの構築方法、教務・学生部システムの連携、ユーザ重視のEnd User Computing について実践指導した。
54. .私立大学図書館協会 研修会 講師	1997年11月	(研修タイトル) 図書館情報システム導入・運用に関する現状と問題点について (全体概要) 本研修会では、図書館情報システム導入・運用に関する現状と問題点について、大学ネットワークの整備、図書館情報システムの構築・運用の現状と問題点を報告。専門職として、大学図書館司書の育成方法についても研修指導を実施。
<b>4 その他</b>		
1. 日本オラクルと協働	2015年5月	武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部が平成24年度を「情報教育研究環境の改革元年」と位置づけ、クラウド環境の構築等をスタートした。この取組成果を講演や学外の冊子で公表。日本オラクルとは、特にクラウド構築に取組んだ。 (成果物) 2015年夏「オラクルマガジンvol.23」の記事。
2. 日本ファイリングと協働	2015年4月	武庫川女子大学附属図書館中央キャンパス地下1Fに集密書架を導入するにあたり、計画立案を含め、補助金取得まで協働した。 また集密書架と図書館との関係について、協働した内容を専門誌に掲載している。 平井尊士「学生目線から生まれたにぎわいと多彩な学習の図書館」機関紙Better Storage, Vol.197, 2015.4 ( <a href="https://www.nipponfiling.co.jp/products/publishing/backnumber.html">https://www.nipponfiling.co.jp/products/publishing/backnumber.html</a> に掲載)
3. 日本アルカテル・ルーセントと協働	2015年4月	武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部における学内インフラ環境を整えるためにネットワーク機器を全学に整備した。この整備に当たって協働で進めた内容について報告する。 (協働) 日本アルカテル・ルーセント、「アルカテル・ルーセントエンタープライズのソリューションにより、全国屈指の女子総合大学が学習・情報共有環境を改善」日本アルカテル・ルーセントより報告。 (英文と日本語にて発信) (和訳) <a href="http://www.alcatel-lucent.co.jp/enterprise/solutions/case/mukogawa.pdf">http://www.alcatel-lucent.co.jp/enterprise/solutions/case/mukogawa.pdf</a>
4. 読売新聞大阪本社と協働	2013年11月	武庫川女子大学附属図書館の改修による図書館活動の新規取組、学内のアクティブラーニングなどの成果発表について読売新聞大阪本社とゼミ学生が共同して広告紙面を作成。 広告紙面:平成25年11月16日
5. NTT西日本と協働	2012年9月～現在	2011年度を「情報教育改革の元年」と位置づけ、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部が進めてきたICT基盤整備について、取組成果を講演や学外の冊子で公表。NTT西日本とは、特にクラウド、データベースシステム、図書館システム、全学ネットワークの整備を進めた。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		(成果物) 2012年パンフレットの作成。事務用シンクライアントの導入とデータセンター活用 (HPでも公開:導入事例:学校教育部門) <a href="https://www.ntt-west.co.jp/business/casestudy/?cs=bizcat_02&amp;t=btn1">https://www.ntt-west.co.jp/business/casestudy/?cs=bizcat_02&amp;t=btn1</a> (2013年3月25日掲載)

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許		
---------	--	--

2 特許等		
-------	--	--

1. 情報装置、ソフトウェア更新システム、ソフトウェア更新方法およびそのプログラム	2006年～現在	①特許第3862738号(出願:平成16年5月19日) ②特許願2005-515007(平成18年9月11日) ③PCT国際出願(PCT(Patent Corporation Treaty)/JP2004/006752) ④中国特許 Chinese Patent Application No. 200480015207.0 ⑤ロシア及びインド及びイスラエルで特許を取得 (概要) 本取得特許は、OSのセキュリティホール・パッチ作業を簡素化・自動化し、管理者に負担をかけることなく安全に運用をサポートし、クラッカーからの攻撃に対する防御能力を高めることを目的とした産学共同の研究成果である。高いセキュリティが求められるグループウェア、Eコマース、基幹業務連携の端末等、様々なWebアプリケーションサービスを強力にサポートするツール製品の特許である。 (研究成果の公開) <a href="http://www.qloc.net/">http://www.qloc.net/</a> に掲載。(平成27年1月～現在) (担当部分概要) 産学連携の体制の確立および市場調査、モデルの構築、システム開発を担当。 (研究開発) クワンティ株式会社(寺澤陽一郎(クワンティ)、平井尊士(武庫川女子大学)) Qwanty、Qlocは、Qwanty Corporationの商標。その他の社名、製品名は、各社の商標または登録商標。
---	----------	--

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
-----------------------	--	--

1. 武庫川女子大学情報教育研究センター常任委員(兼研究員)	2016年4月～現在	<p>新体制の基、学院キャンパススマート計画構築・実施ため新センター長以下、発足。常任委員および研究員を兼ね、学院のICT化の中心は本常任委員会で取り決め、研究員として、実施。また情報リテラシー科目は、役割を終え、各学科で実施。と同時に、情報処理委員はなくなり、学科で実施。</p> <p>※平成26年度より図書館委員会委員(司書課程)</p> <p>2012.12～2013.04:今安委員長, 2013.4～現在:玉井委員長, (他構成メンバー, 事務局長, 財務部長他関係部署課長, <b>平井尊士</b>, 設楽講師) (概要) 学院の教育環境整備を戦略的に進めるために組織された委員会。各委員会や関連部署との協議, 補助金書類・報告書作成に従事。 <b>(平成24年度)</b> 全学共通クラウド型情報教育環境整備事業(大短)などを含めた5件の申請に関わる(採択5件, 不採択3件) <b>(平成25年度)</b> 附属図書館メディアゾーン教育装置, 学院キャンパス整備(ネットワークシステム・ICTマルチメディアシステム)事業(大短)5件の申請に関わる(採択5件, 不採択0件) 附属中央図書館リニューアルに関わり, 同時にリニューアルガイドブック, SSLC報告書, オープニング記念イベント, 附属図書館システムリニューアル等に関わる <b>(平成26年度)</b> 文部科学省グローバル創生支援事業「総合女子大学としての牽引型グローバル人材育成PJ」等2件に申請に関わる(採択0件, 不採択2件) <b>(平成27年度)</b> 私学総合改革支援事業へ申請(不採択)。キャリアセンターのリニューアルを実施。</p>
2. 武庫川女子大学 教育開発支援室委員	2014年9月～現在	
3. 武庫川女子大学 情報処理教育センター紀要編集委員(情報教育研究センター常任委員として)	2014年4月～現在	
4. 武庫川学院キャンパスネットワーク運営委員会委員(情報教育研究センター常任委員として)	2013年5月～現在	
5. 武庫川女子大学 学校図書館司書教諭課程責任者(文部科学省登録)	2012年4月～現在	
6. 武庫川女子大学 図書館司書課程責任者(文部科学省登録:新カリキュラム)	2012年4月～現在	
7. 武庫川女子大学 情報処理教育センター常任委員	2012年4月～2016年3月	
8. 武庫川学院教育環境整備戦略委員	2012年12月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
9. 兵庫大学附属研究所実践食育研究センター研究員 (平成23年3月まで研究分担:補助金事業としては平成25年3月まで)(文部科学省私学戦略基盤研究支援事業)	2010年4月1日～2011年3月31日	情報処理センター所長を委員長に委員として従事する。委員会発足のための仕組み策定。
10. 兵庫大学附属研究所実践食育研究センター補助金申請書作成責任者及び運営委員(平成23年3月まで)(文部科学省私学戦略基盤研究支援事業)	2010年4月1日～2011年3月31日	
11. 兵庫大学情報メディアセンター(ICT教育課及び図書館課)運営委員	2010年4月～2011年3月	
12. 兵庫大学・兵庫大学短期大学部認証評価検討委員(平成22年3月まで)(担当:基準9)	2009年4月～2010年3月	
13. 兵庫大学教学情報システム構築委員会委員	1996年4月～1997年4月	
<b>4 その他</b>		
1. 兵庫大学/兵庫大学短期大学部新HRAMONIS学術システム変更における基本構想策定およびシステム構築	2010年4月～2011年3月	情報メディアセンター業務にてシステム変更の構想の構築およびシステム構築運用に従事(西田悦雄・高市英明・柳井敏男・小西満子・宮脇と共に仕組み策定)  文部科学省高等教育研究改革推進経費:大学教育高等教育推進特別経費(申請責任者 情報科学センター 三宅伸二、申請業務担当者:平井尊士、西田悦雄、柳井敏男)
2. 兵庫大学/兵庫大学短期大学部VPN構想策定およびシステム構築	2010年4月～2011年3月	情報メディアセンター業務(管理職)にてシステム変更の構想の構築およびシステム構築運用に従事(平井尊士、西田悦雄、高市英明、柳井敏男と共に仕組み策定) 文部科学省高等教育研究改革推進経費:大学教育高等教育推進特別経費(申請責任者 情報科学センター 三宅伸二、申請業務担当者:平井尊士、西田悦雄)
3. 兵庫大学/兵庫大学短期大学部新統合HUMANS教育研究システムおよび新統合HUMANS教育研究情報ネットワークシステム 基本構想策定およびシステム構築	2008年4月～2011年3月	情報科学センター業務にてリプレース構想の構築およびシステム構築運用に従事(高市英明および柳井敏男と共に仕組み策定、西田悦雄・河野稔と共に学部学科教育及び専門教育において運用) 文部科学省高等教育研究改革推進経費:大学教育高等教育推進特別経費(申請責任者 情報科学センター 辻悦子、申請業務担当者:平井尊士、高市英明、柳井) その他: ① 本システムには、栄養マネジメント学科国家試験対策システムも含まれる(主に同学科・穂積ゆかり助手と構築運用、尚平成21年度は国家試験問題集システムを穂積ゆかり助手、亀谷講師と共に構築) ② 本システムには、業績プロシステムも含まれる(主に学事課政平課員と共に構築) 本システムには、看護学科国家試験対策システムも含まれる(主に看護学科国家試験対策委員と共に構築)
4. ノート型パソコン活用環境をベースとした学習者対応型新HARMONIS教育学習支援システム	2004年4月～2010年3月	情報科学センターおよび附属図書館業務にてリプレース構想の構築およびシステム構築運用に従事(高市英明と共に仕組み策定、西田悦雄・河野稔と共に学部学科教育及び専門教育において運用) 文部科学省大学教育高等教育推進特別経費(申請責任者 岩崎治夫:申請業務担当者:平井尊士、高市英明)
5. 兵庫大学「新入生へのノート型パソコン無償貸与実施による情報活用教育の実践」	2004年4月～2011年3月	情報科学センター業務(管理職)にて企画・運用に従事。 文部科学省高等教育研究改革推進経費:大学教育高等教育推進特別経費(申請責任者 情報科学センター、田中正彦、申請業務担当者:平井尊士、河野稔)
6. 兵庫大学「新入生へのノート型パソコン無償貸与実施による情報活用教育の実践」	2004年	
7. 兵庫大学・兵庫大学短期大学部「新HUMANS教育・研究用コンピュータシステム」基本構想策定およびシステム構築	2001年4月～2007年3月	情報科学センター業務(管理職)としてリプレース構想の構築およびシステム構築運用に従事(河野稔と共に仕組み策定) 文部科学省高等教育研究改革推進経費:大学教育高等教育推進特別経費(申請責任者、情報科学センター、田中正彦、申請業務担当者、平井尊士、河野稔)
8. 2000年問題に従事	1999年4月～2000年3月	情報処理センター管理職として本業務に従事。
9. 兵庫大学情報処理センター各種規定策定	1998年4月～2011年3月	情報処理センターが関係する諸規定。主に学内ネットワーク管理・運用・利用内規・利用ガイドラインなどの策定に管理職として従事。
10. 兵庫大学学内ネットワーク利用サービス拡張	1998年4月～2011年3月	情報処理センター管理職として、専任教員個人研究室にネットワーク、無線環境、PC教室整備などに従事。併せて私学助成補助金取得業務に責任者として従事。
11. 教学情報システム構築	1996年4月～1997年3月	私学助成補助金取得。技官(技術職員)として、従事。
12. 情報通信ネットワーク装置「HARMONIS」構築	1996年4月～1997年3月	私学助成金取得事業。専門職(技術職員)として従事。
13. 兵庫大学図書館情報管理システム構築	1995年4月～1996年3月	兵庫大学附属図書館館長を委員長に、技官(技術職員)



職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
14. SINET加入・大阪大学ノード接続	1995年4月～1996年3月	として、システム仕様策定・構築・運用に従事。 技官（技術職員）としてSINET大阪大学に接続する仕組み策定に従事し、専用線で接続。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 学校図書館メディアの構成'15[査読FA制度導入]	共	2016年3月31日	放送大学振興会（刊行予定：原稿提出済み、ラジオ教材として担当部分収録済み）※執筆内容に際して2015年度FA制度を導入	（編著者（主任講師））北克一， <b>平井尊士</b> ，（共著者）米谷優子，川瀬綾子（概要）1998年（平成10年）3月、司書教諭講習科目が改正。本書は、学校教育で扱う資料・メディア、情報の収集、情報の組織化全般を総合した。構成は、メディアの種類・特性・選択・収集、組織化、学術情報の流れの3つに編集した。B4版 全300頁程度 （本人担当部分）本書の構成編成，2章，3章，4章，5章，6章
2. 情報資源組織論 よりよい情報アクセスを支える技とシステム	共	2014年4月	ミネルヴァ書房	（著者）志保田勉，山本順一， <b>平井尊士</b> ，岩崎れい，（概要）本書は、図書館情報学（言語情報・文献管理学）に関する資料・メディアの組織化、学術情報の流通に関する著書。 （担当部分，第8章「ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ」）
3. 児童サービス論	共	2012年9月発行	学芸図書	（監修）志保田務，高鷲忠美（編集者）難波博孝，山元隆春，宮本浩治（著者）寺田守，小迫洋子， <b>平井尊士</b> ，林美千代，設楽馨，兼松芳之，細恵子，佐野宏，吉川五百枝，今井美都子，山本ひとみ，河内鏡太郎，川崎安子（概要）国語教育における読書の観点を取り入れつつ、図書館司書としてのサービスを論じた。B4版，全256頁 （本人担当部分）2.1「児童図書資料の種類」（P.66-P.76），4.2「児童サービスとしての図書資料の選択と組織」（P.211-P.222）の執筆を担当
4. 教育方法・技術論	共	2012年4月16日発行	学芸図書	（編著集）小柳和喜雄，小野賢太郎， <b>平井尊士</b> ，宮本浩治（著者）小崎誠二，河野芳文，佐野宏，設楽馨，西本望，西田悦雄，橋本三嗣，藤本勇二，山本吉延ほか11名（概要）教育方法の概要と、幼稚園から中学校までの実践、学校と教師の理解、情報化社会の学校について論じた、教育現場を理解するための入門書。B4版，全256頁（本人担当部分）編集と1.3「教授・学習理論の今を理解する」（P.12-P.16），1.4「メディアと学習環境の今を考える」（P.17-P.22）の執筆を担当
5. 情報資源組織法	共	2012年3月	第一法規	（監修）志保田務，高鷲忠美，（著者） <b>平井尊士</b> 。（概要）本書は、図書館情報学（言語情報・文献管理学）に関する資料・メディアの組織化に関する著書。 （担当部分）「情報資源の組織化（学術情報の生成）とメタデータ」
6. 学校図書館メディアの構成'12	共	2012年	放送大学	（編者（主任講師））北克一， <b>平井尊士</b> ，（共著者）北克一， <b>平井尊士</b> ，米谷優子，川瀬綾子（概要）1998年3月司書教諭講習科目が改正。本書は新科目「学校図書館メディアの構成'12」に対応し、学校図書館における資料・メディア、情報の収集、情報の組織化について編纂。B4版 全300頁程度 （担当部分）本書の編集および2章，3章，4章，5章，6章
7. 現代人の社会とこころ：家族・メディア教育・文化	共	2010年3月	弘文堂	（編集）佐藤典子，（共著者）佐藤典子， <b>平井尊士</b> ，須藤葵，池田祥英，楠秀樹，春日清孝，諸田裕子，増田貴彦 （概要）本書は、社会心理学・教育心理学を主としたものである。特に、情報メディアと人間（の発達）の関係性を論述することにより新たな社会心理学の切り口として編集した。 （本人担当部分）第6章 教育とメディア，第1節 科学技術はコミュニケーションをどう変えたのかを担当。P.134-P.157)の執筆。
8. 学校教育と図書館	共	2007年9月	第一法規	（編集）志保田務，北克一，山本順一，（共著者）井上靖代，岩崎れい，枝元益裕，榎本由季子，大平睦美， <b>平井尊士</b> ，（概要）本書は、小学校から高等学校を対象とした「学校経営と図書館」，「メディアの構成」，「学習指導と図書館」，「読書と豊かな人間性」，「情報メディアの活用」について編集したものである。B4版 全344頁。 （本人担当部分）4.2「発達段階に応じた学校図書館メディアの選択」（P.232-P.235）の執筆。
9. 情報サービス：概説とレファレン	共	2007年5月	学芸図書	（監修）西田文男，（編集・著者）志保田務， <b>平井</b>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
スサービス演習 第3版(改訂)				<p>尊士, (共著者) 井上祐子, 笠井詠子, 北西英里, 坂下紀子, 阪上晃康, 谷本達哉, 槻本正行, 藤間真, 向畑久仁, 中村恵信, 西岡清統, 濱崎邦子, 浜田行弘, 前川和子</p> <p>(概要) 2版から更に図書館を取り巻く環境や国立情報学研究所等大学図書館と関連する機関のサービス内容が大幅に更新。その変化に対応すべく内容の一部に加筆修正および新しいメンバーにも参加してもらい第3版(改訂)を編んだ。B4版, 全205頁</p> <p>(本人担当部分) 編集ならびに2.3「情報サービス空間の概念の定義」(P. 41-P. 44), 4.1「レファレンスコレクションから電子情報?の収集」(P. 85-P. 105), 4.2「図書館システムの環境」(P. 106-P. 111), 4.3「各種情報ニーズの対応について」(P. 112-P. 124), 7「基本レファレンスツール」(P. 159-P. 184)の執筆を担当。</p>
10. 資料組織法第6版別冊: 目録記入 実例集	共	2007年3月	第一法規	<p>(編者) 志保田務, 高鷲忠美, (共著者) 中村静子, <b>平井尊士</b>, 井上祐子, 向畑久仁, 前川和子。</p> <p>(概要) 本書は、「資料組織演習」用に作成した実例に基づいた著書である。伝統的な言語の分析方法の1つである『分類・目録法入門』など「資料組織概説」に関するテキストとも組んで使用が可能である。B4版 全57頁</p> <p>(本人担当部分) 編集およびすべての分類の演習問題の収集と加工を担当。</p>
11. 情報サービス	共	2006年2月	学芸図書	<p>監修) 西田文男, (編者・著者) 志保田務, <b>平井尊士</b>, (共著者) 笠井詠子, 北西英里, 坂下紀子, 阪上晃康, 谷本達哉, 槻本正行, 他7名</p> <p>(概要) 図書館を取り巻く環境の変化に伴い、サービスも変化する。その変化した内容について論じる。</p> <p>(本人担当部分) 2.3(p. 39-43), 4.1(p. 86-p. 106), 4.2(p. 107-p. 112), 4.3(p. 113-124), 7(p. 158-191)及び本書の編集。</p>
12. 改訂 学校図書館メディアの構成	共	2005年6月	放送大学振興会	<p>(編者) 志保田務, 高鷲忠美, 北克一, (共著者) <b>平井尊士</b>,</p> <p>(概要) 本書は、メディアの種類・特性・選択・収集と組織化の2つに編集した。B4版, 全288頁</p> <p>(本人担当部分) 2章「情報メディアの種類とその特性」, 3「選択と収集」(P. 22~P. 54)の執筆を担当。</p>
13. 資料組織演習 (筑波大学刊行シリーズ: 図書館情報学の基礎第9巻)	共	2003年3月	勉誠出版	<p>(共著者) <b>平井尊士</b>, 藤原是明</p> <p>(概要) 筑波大学大学院刊行シリーズである図書館情報学(言語情報・文献管理学)の基礎第9巻にあたる。本著は、言語分析の1つである資料・メディアの分類法および資料目録法についての概論と演習問題集である。B4版 全153頁</p> <p>(本人担当部分) 1章「分類・分類法の意義・目的」, 2章「分類作業」, 3章「分類作業の内容とその過程」4章「コード言語による表記規則」5章「分類演習問題までの資料組織における資料分類法部分」(P. 1-P. 93)について執筆および本書の編集を担当。</p>
14. 資料組織法演習問題集: 赤版	共	2002年5月	第一法規	<p>(共著者) 志保田務, 高鷲忠美, <b>平井尊士</b>, 中村静子, 井上祐子, 向畑久仁, 前川和子</p> <p>(概要) 本書は(旧)「資料組織演習」用に作成した問題集と解説論である。『資料組織法』(第一法規)と連携。言語分析の1つである『分類・目録法入門』など「資料組織概説」に関するテキストとも組んで使用が可能である。B4版, 全140頁</p> <p>(本人担当部分) 編集およびすべての分類の演習問題の収集と加工を担当。</p>
15. 資料・メディア総論	共	2001年6月	学芸図書	<p>(監修) 志保田務, 山本順一, (編著者) <b>平井尊士</b>, 谷本達哉, (共著者) 河野稔, 高鷲忠美, 藤原是明, 中村恵信, 前川和子</p> <p>(概要) 本書は、文献管理学(資料・メディア論)についての概論書である。メディア、特殊資料メディアについても言及。筑波大学, 東京学芸大学, 大阪府立中之島図書館, 和泉市図書館, INFOSTA, 株式会社ジーサーチの協力を得る。B4版, 全221頁(本人担当部分) 序「図書館資料系3科目の位相相互関係」(P. 7~P. 58), 専門資料論と学術情報の意義と種類(P. 111~P. 120)および編集を担当。</p>
16. 資料組織法演習問題集: マルチメディア版	共	2001年5月	第一法規	<p>(編著者) 志保田務, 高鷲忠美, <b>平井尊士</b>, (概要) 「資料組織演習」用に作成した問題集とその解説である。『資料組織法』(第一法規)と連携。また言語分析の1つである『分類・目録法入門』など「資料組織概説」に関するテキストとも組んで使用が可能である。B4版, 全90頁</p> <p>(本人担当部分) 編集およびすべての例題の加工お</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
17. 情報活用：情報検索と情報処理実々実行：サーチャ、システムアドミニストレータ、アーキビストへの路	共	2000年6月	学芸図書	よび演習のFD化を担当。 (編著者) 志保田務, <b>平井尊士</b> , (共著者) 河野稔, 笠井詠子, 寺沢陽一郎, 都築泉, 中崎修一, 藤間真 (概要) 本書は、情報検索についての基礎概論書である。「情報検索基礎」「コンピュータ概論」「情報処理基礎」を領域とし、「システムアド」「サーチャー」の内容を取入れ編集した。世界の文系を扱うため英語表現・データベース作成擬似体験なども取り込み工夫をした。B4版, 全215頁(本人担当部分) 1. 情報の定義、歴史 (P.7~P.16), 2. 大学におけるコンピュータリテラシー (P.33~P.46), 4. 大学図書館の技術的側面および検索技術の概要 (P.61~P.75), 7. 企業情報と情報活用, 8. 業務知識と情報活用, 9. 「サーチャーの概要」 (P.103~P.146) の執筆, 編集を担当。
18. 学校図書館メディアの構成'00	共	2000年4月	放送大学振興会	(編著者) 志保田務, 高鷲忠美, 北克一, (共著者) <b>平井尊士</b> , (概要) 本書は、メディアの種類・特性・選択・収集と組織化の2つに編集した。B4版, 全263頁 (本人担当部分) 2章「情報メディアの種類とその特性」, 3「選択と収集」 (P.21~P.55) の執筆を担当。
19. 情報サービス：概説とレファレンスサービス演習	共	1999年4月	学芸図書,	(監修) 西田文男, (編著者) 志保田務, ) <b>平井尊士</b> , (共著者) 阪上晃康, 谷本達哉, 槻本正行, 他5名 (概要) 情報依存型の社会基盤は、利用者の要求に対する探索・提供は公共的なサービスが必要不可欠である。本書は「情報サービス概説」及び「レファレンスサービス演習」を対象にし編集執筆を行った。B4版, 全149頁 (本人担当部分) 2.3「情報サービス空間の概念の定義」 (P.40~P.44), 3.1「レファレンスコレクションから電子情報の収集」 (P.89~P.127), 4.2「図書館システムの環境」, 4.3「各種情報ニーズの対応」 (P.160~P.188) の執筆および本書の編集を担当。
20. 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用12章	共	1999年4月	第一法規出版	(編著者) 志保田務, <b>平井尊士</b> , (共著者) 河野稔, 笠井詠子, 他4名 (概要) 1996年(平成8年)の図書館法施行規則改定より変更。本書は「各種情報機器の機能、種類、利用等について解説する」範囲でテキスト編集に取組む。構成は、(文部科学省省令)「情報メディアの活用」にも対応できるよう編集を行った。A4版, 全146頁 (本人担当部分) パートI「図書館における情報機器の定義」 (P.9~P.10), パートII「利用者空間の概念定義、入退館システム、複写機、視聴覚メディアとコンピュータシステム、エレベータ」 (P.43~P.48), パートIII「図書館管理システム全般」 (P.61~P.68), パートIV「情報機器と廃棄」 (P.77~P.126, P.131) の執筆および本書の編集を担当。
<b>2 学位論文</b>				
1. 情報科学における認識の問題の重要性：インド論理学のニヤーヤ・ストローを中心とした考察	単	1993年9月	文学修士(図書館情報学) 修士論文(大井正一研究室)	(概要) 情報科学の認識パターンの基礎的研究に、東洋論理学のニヤーヤ論を展開。人間の脳が事象を認識する過程をパーリー語、漢文が原点になっている教典(ストロー)を解説し、思考過程をパターン化をする。具体的には、感性情報処理(人工知能)の一部のパターン化を論理学を用いて基礎的研究を行った。今後コンピュータへの応用に役立つことを示唆する。
<b>3 学術論文</b>				
1. 2014年度図書館におけるアクティブ・ラーニングの試み—教育環境整備と司書課程の取組—「(査読付)」	共	2015年9月1日	「武庫川女子大学情報教育センター紀要」武庫川女子大学, Vol.01, pp.10-pp.19	<b>平井尊士</b> , 設楽馨 (概要) 本学附属図書館は、2013年度にアクティブ・ラーニングを推進する教育環境として整備された。本学司書課程は2014年度授業から司書育成を開始した。アクティブ・ラーニングのための教育環境整備概要, 「児童サービス論」の取組の概要、協働性や能動性を生み出す仕掛け、環境等、今後のアクティブ・ラーニング型学習空間を整備するうえでの提言をまとめる。 (本人担当部分) 論文の枠組み、司書課程の仕組みづくり
2. 児童の読書活動とその役割に関する一考察	共	2014年3月5日発行	「日本語日本文学論叢」武庫川女子大学, Vol.9, PP.103-PP.112.	設楽馨, <b>平井尊士</b> (概要) 2012年より数年にわたって実施してきた武庫川女子大学学生を対象に読書活動に関する調査において、文学部日本語日本文学を専攻する、「本好き」の学生と、そのほかの学生との比較を検討した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
3. 知の拠点としての図書館におけるアクティブラーニングに向けて—本学附属図書館にて展開すべき「学び」とは—(査読付)	共	2014年3月31日発行	「武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編」武庫川女子大学, Vol. 6 0, PP. 1-PP. 9.	しかし、有意な差は見出せず、司書課程履修者は図書への嗜好が均質的な集団であることが確認された。また、読書と学力の関係を考察した。 (本人担当部分) データ作成及び「四. まとめ」 設楽馨, <b>平井尊士</b> , 川崎安子 (概要) 武庫川女子大学においてアクティブ・ラーニングを推進していくため、新しい学習環境となる附属図書館でどのようなことができ、また、学生はどのようなものを求めているのかを対照し、今後の学修形態を考察した。 (本人担当部分) 4. 附属図書館が可能とする学修
4. 幼少期の読書とその効果—1990年代生まれの女子大学生の場合—(査読付)	共	2013年3月31日発行	「武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編」武庫川女子大学, Vol. 6 0, PP. 1-PP. 8.	設楽馨, <b>平井尊士</b> (概要) 2012年から数年にわたって実施してきた、本学学生を対象にした読書活動に関する調査において、「本好き」の学生と、そのほかの学生との比較を検討した。結果、有意な差は見出せず、司書課程履修者は図書への嗜好が均質的な集団であることが確認された。また、読書と学力の関係を考察した。 (本人担当部分) データ作成、「1. はじめに」
5. 2012年クラウドコンピューティングシステムを導入した本学情報システムの現状と課題	共	2013年11月20日発行	「武庫川女子大学情報教育研究センター紀要2012」武庫川女子大学, Vol. 21, pp. 6-pp. 11.	<b>平井尊士</b> , 西隆正 (概要) ITリソースの効率を上げつつ、セキュリティを保障する技術が模索されている。昨今はとりわけ、仮想化が開発され発展してきた。また、東日本大震災を機に、データの遠隔バックアップという手法が支持され、これに付随する技術革新も進んでいる。安全性や可用性の高いクラウドコンピューティングを、本学に導入後、どういったシステム構築が適切なのか考察する。 (本人担当部分) 本文執筆
6. 2011年度キャンパス無線LANの整備の現状と今後	単	2012年12月20日発行	「武庫川女子大学情報教育研究センター年報2011」武庫川女子大学, Vol. 20, pp. 17~21	近年のスマートフォン利用者に利便性と機動性を提供する無線LANの実態と問題点を整理した。構成は1. 学院の情報基盤の概要と状況, 2. 無線LANシステムの特徴, 3. 整備内容, 4. 問題点と今後の課題, 5. 公衆(広域)無線LANへの可能性, 6. 謝辞から成る。スマートフォン利用の増加に伴い、無線LAN利用拡大は必須である。そのため、今後は多様化した利用形態、高速化、負荷、利用制限、電波干渉などの課題を迅速に解消しなくてはならない。
7. 学習者個別対応実践型演習システムの活用の一試み(査読付)	共	2010年3月	「兵庫大学論集」兵庫大学, Vol. 15, pp. 241-245	西田悦雄, <b>平井尊士</b> (概要) 本研究は、2009年度、情報メディアセンターICT教育課と経済情報学部は学習効果の向上を目指し、新統合HUMANSと連携した学習者個別対応実践型演習システムの構築を実施した。プログラミング関連科目を対象に試験運用から実施。本報告では、中間報告を行い、現在の取り組みについてまとめた。 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクト構築
8. ICT活用指導力向上に向けた教科算数における小学校教師の事前意識調査(査読付)	共	2009年3月	「武庫川女子大学紀要(人文・社会学)」武庫川女子大学, Vol. 56, pp. 43-52.	<b>平井尊士</b> , 小野賢太郎 (概要) 本研究は国の施策に沿い、東京都町田市でICTの活用について2005年度から産学官共同で取り組んだ。本稿は、一般的な調査ではなく、学年が上がるにつれて習熟度の差がテスト等で顕著になりやすいとされる教科算数の指導方法に焦点を当て、教師の意識調査の結果と課題をまとめた。 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
9. 教科書に準拠したフラッシュ教材の開発と指導方法の一考察—神戸市立I小学校第3学年算数「形を調べよう」を事例として—(査読付)	共	2009年3月	「兵庫大学紀要」兵庫大学, Vol. 114, pp. 123-pp. 132	<b>平井尊士</b> , 小野賢太郎 (概要) 神戸市立I小学校(研究校)において、教科算数の効果的なICT活用の普及を目的に、教師の意識を調査した。第3学年の単元「形を調べよう」の授業にあたり、教科書に準拠した6種類のデジタル教材(Adobe社のフラッシュソフトウェアを用いたアニメーション教材)を開発した。普通教室でデジタル教材を用いる学習効果について、教育効果や授業手法等や課題について検討。 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
10. 学業不振自動の学力向上を意識した教科算数における指導方法の一考察：神戸市立K小学校第6学年の1学期の実践授業および朝の特別学習を通して(査読付)	共	2009年3月	「武庫川女子大学大学院教育学研究論集」武庫川女子大学, Vol. 4, pp. 43-pp. 48.	<b>平井尊士</b> , 小野賢太郎 (概要) ICTの効果と児童の基礎学力とを関係づける検討にはだ至っていない。本研究は、児童の実際の算数の基礎学力がどの程度なのか、算数の基礎学力を向上させるためにどのようなことができるのかに焦点を当て、調査を実施した内容を報告する。 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
11. 教科算数のためのFLASH教材とヒントカードを統合したPDAシステムの開発とその経過	共	2009年3月	「武庫川情報教育センター紀要」武庫川女子大学, Vol. 13, pp. 47-pp	<b>平井尊士</b> , 小野賢太郎 (概要) ICT活用といえば、普通教室での“コンピュータ+プロジェクト+デジタル教材”という一斉授

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
12. 教科算数において個に応じた学習を支援するICTの活用と指導方法の一考察：神戸市立T小学校第6学年「体積」の実践授業を通して（「査読付」）	共	2009年3月	.53. 「武庫川女子大学紀要（人文・社会学）」武庫川女子大学，Vol. 56, pp. 31-pp. 42	業の方法が一般的である。我々は、児童全員に配布した携帯端末（PDA）を使用して授業を展開し、より個別に応じた教育に対応できるか、PDAシステムの開発と授業方法の検討を行い、開発経過を報告した。 （本人担当部分）論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。 <b>小野賢太郎，平井尊士</b> （概要）本研究は、教科算数において効果的なICT活用の普及を目的にK市立T小学校の教師を対象に教科算数の授業の取り組みに関する教師の意識調査を実施。結果と課題についても報告した。 （本人担当部分）論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
13. 教科算数のためのFLASHを使った[Q&A型]デジタル教材の開発と活用	共	2009年12月	「武庫川情報教育センター紀要」武庫川女子大学，Vol. 14, pp. 32-pp. 35.	<b>小野賢太郎，平井尊士</b> （概要）教科算数において効果的なICT活用の普及を目的に、携帯端末（PDA）を用いたFLASH型教材を開発し、その教育方法と教育効果の検討を実施。特に結果とICTを授業で活用していく上での問題点についても報告した。 （本人担当部分）論文の執筆、プロジェクトの構築、教材開発、現場小学校での実証実験など。
14. ICT(デジタルコンテンツ)の活用が児童の学習効果や教師の指導力に及ぼす効果の一考察－神戸市立小学校における教科授業を事例として－（「査読付」）	共	2008年3月	「兵庫大学紀要」兵庫大学，Vol. 113, pp. 211-pp. 230.	<b>平井尊士，須藤葵，吉田和正，植松貞夫</b> （概要）本研究は、公立小学校の教科科目の授業の中で、デジタル教材を用いることが、児童のわかる授業にどのように貢献するか統計的手法を用い分析研究を実施した。 （本人担当部分）論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
15. デジタルコンテンツを有効活用するための学習環境の整備とITを活用した教育効果向上のための実践授業と評価	共	2005年6月	「神戸の教育の情報化研究論文」神戸市教育委員会，Vol. 1, No. 1, pp. 25-54.	<b>平井尊士，吉田和正，植松貞夫</b> （概要）本研究は、神戸市内において、教科教育（理科）で、デジタルコンテンツの普及を目的に2002年度より、学習環境の研究開発と活用方法・効果について研究を実施。本実践論文では、2004年度までに神戸市立公立小学校で行った取り組みについて教育効果をまとめたものである。結果、児童生徒にICT活用は具体的な評価項目において教育効果があった結果となった （本人担当部分）論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
16. 図書館学教育・図書館利用教育におけるWeb教材・ビデオ教材の活用：調査のための予備的考察	共	2001年7月	「図書館界」日本図書館研究会，Vol. 53.No. 2，pp. 112-116.	<b>平井尊士，前川和子，志保田務</b> （概要）図書館利用の定義は、利用者に対し図書館の利用法や情報検索・蔵書検索の方法を案内し教示することである。利用教育は、図書館サービス活動の一環として実施されるが、大学では基礎教育として認識され、指導が行われている。本稿では、Web教材、ビデオ教材が活用されることに着目し、その実例を概観し利用者の指針を提示した。 （本人担当部分）各大学の調査、分析を担当。
17. インターネット情報選択用ブラウザの設計と事業化（公共施設向け）：Web 氾濫化フィルタリング志向の克服をコンセプトとして	共	2001年3月	「桃山学院大学図書館学紀要」桃山学院大学，Vol. 17. pp. 91-pp. 98.	<b>平井尊士，寺澤陽一郎</b> （概要）本稿は、我々大阪府の助成金を申請取得し、立ち上げたベンチャー（企業）設立について過程と課題をまとめるものである。特に起業する場合の実際の進め方の課題について、インターネットのフィルタリング事業を例にとり、まとめた。結果、若者が企業するベンチャー企業についてモデルとなる一例である。 （本人担当部分）論文の章立て、および府下、市内の実態調査および分析を担当。
18. 司書科目における書誌データベース構築演習の一手法の提案	共	2000年7月	「整理技術研究」日本図書館研究会，Vol. 43	<b>平井尊士，北克一，志保田務</b> （概要）本稿では、ネットワーク時代下の「情報化」に対応する「情報検索演習」「情報機器論」「資料組織演習」科目の演習方法のパターンを確認し、その発展展開の一手法を提示した。
19. 学校図書館と『情報化』の一考察	共	2000年5月	「図書館界」日本図書館研究会，Vol. 52.No. 2，pp. 124-pp. 130.	<b>平井尊士，志保田務</b> （概要）本稿は図書館に必要な情報システムの枠組みについてモデルを提案する。図書館の情報化の意味、省令科目との比較『中学・高校件名標目表』比較、更にアンケート調査（兵庫県私立学校の調査）について検討し、現状の児童生徒の学校図書館を情報センターとして活用する指針を提示した。 （本人担当部分）論文の章立ておよび対象学校へのアンケートの実施、分析を担当。
20. ドラッカー『非営利組織の経営』（訳書：ダイヤモンド社）の索引作成	共	2000年3月	「桃山学院大学図書館学紀要」桃山学院大学経営学部，Vol. 16. pp. 105-pp. 119.	<b>平井尊士，志保田務</b> （概要）本稿は、索引用語の選択・統一を最終的にしていないデータについてのデータベース化の言語分析を試みた。本研究によって、データベースとし蓄積することで、デジタル索引に発展できることが実証できた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
21. 学術情報ネットワークから見た図書館としての役割：図書館を学術情報流通機関として捉える	共	1999年6月	「私立大学図書館協会会報」私立大学図書館協会、Vol. 112. pp. 123-pp. 135.	(本人担当部分) 図書館情報学として捉える言語の抽出およびデータ処理、分析を担当。 <b>平井尊士</b> , 中崎修一, 河野稔 (概要) 本稿では、大学図書館の未来像について「図書館＝学術情報流通機関」と定義し、図書館情報システムについて検討した。技術的手法として、開発メーカー各社にアンケートを実施し、図書館システムの仕様について考究した。結果今後の大学図書館システムのあり方を提示した。 (本人担当部分) 論文の章立て、各メーカーに対する調査、分析を担当。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 司書課程における図書館サービスのための教育	共	2015年9月27日	情報コミュニケーション学科 (於畿央大学)	<b>平井尊士</b> , 設楽馨 (概要) 図書館司書を育成する司書課程では、一般利用者のための対人支援サービスおよび、利用者を選定した対人支援サービスを教授する。その教育においては、実践的な状況を設定し、対人支援に必須のコミュニケーション能力を養成する必要性から、アクティブラーニングが有効であり、対話や見える化などを推進するための情報活用技術を検討してみる。 (本人担当部分) 施設・設備環境の構築
2. 児童のメディアコミュニケーション向上のための女子大生による絵本サイトの選択と解釈、その変化要因	共	2013年2月	情報コミュニケーション学会第10回全国大会 (於武庫川女子大学)	<b>平井尊士</b> , 設楽馨 (概要) 児童の読書力やコミュニケーション能力向上のために、絵本は重要な役割を担う。情報発展技術のなかでデジタル絵本が広まっているが、子どもに役立つデジタル絵本について簡易な調査を実施し、その結果を報告した。デジタル絵本は文章化された内容の解釈によって選択され、解釈は選択者の価値観に左右され、価値観は時事情報で揺れ動くことを指摘した。
3. 武庫川女子大学附属図書館におけるアクティブラーニングの試み：管理主体からサービス主体の図書館への変革を目指して	共	2013年10月	情報コミュニケーション学会第11回研究会 (於長崎大学)	<b>平井尊士</b> , 設楽馨, 川崎安子, 東中綱利 (概要) 文部科学省が図書館を軸に推奨する、教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションとして、アクティブ・ラーニングが注目される。そこで、アクティブラーニングの現状を示し、次年度から本格的に始動する本学での事例を説明した。そして、図書館変革と学びのコミュニケーションの展開について考察した。
4. 政令指定都市における大規模ICT環境整備と人的環境のあり方	共	2009年9月	第25回日本教育工学会全国退会講演論文集 (於東京大学)	松崎太亮, <b>平井尊士</b> (概要) 学力向上のためのICT活用は教員のICT活用指導力の向上を前提とする。政令指定都市ではICT環境を整備完了している地方自治体は皆無に近く、活用指導力も一般市町村に比較して概ね低い自治体がある。本報告は、教育委員会と学校現場が採るべき整備・運営手法、教員のICT活用指導力の向上を支える人的環境のあり方を、神戸市の事例を通じて分析し課題を考察する。K5-242-04 P. 125-P. 128 (本人担当部分) 論文の執筆、プロジェクトモデルの構築、システム導入委員等。
5. 教科算数における教師の指導方法の一考察：ICT活用を行う上での「算数」に対する事前意識調査と携帯端末 (PDA) の試作開発を通して	共	2008年7月	第3回情報コミュニケーション学科研究大会講演論文集 (於園田女子大学)	<b>平井尊士</b> , 小野賢太郎, 須藤藤吉, 吉田和正, 田後毅, 植松貞夫 (概要) 本論文では携帯端末PDAを用いた取り組みの報告とその教育効果について言及した。Vol. 5, no. 1 (2008-01), P. 7~P. 14 (本人担当部分) 論文の執筆、プロジェクトモデルの構築、現場小学校での証実実験等。
6. 学業不振児童の学力向上を意識した教科算数における指導方法の一考察：神戸市立K小学校第6学年の1学期の実践授業および朝の学習を通して	共	2008年11月	第60回関西教育学会年次大会講演論文集 (於大阪教育大学)	<b>平井尊士</b> , 小野賢太郎 (概要) 我々は、公立小学校において、児童の理数離れや理数科目への学力低下に対応するために、アニメーション教材 (FLASH教材) やICTを用いた方法を取入れ、指導方法の幅を広げる実践研究を実施している。算数の基礎学力、基礎学力をあげる方法に焦点を当て、調査研究を神戸市立K小学校第6学年を対象に小学校と大学で共同研究を実施。途中経過と考察について報告する。 (本人担当部分) 論文の執筆、プロジェクトモデルの構築、現場小学校での証実実験等
7. 情報リテラシー教育における同一素材を使用した各学科特有の試みと一考察	共	2007年9月	平成19年度大学教育・情報戦略大会 (私立大学情報教育協会・文部科学省) (於私学会館)	高市英明, <b>平井尊士</b> , 原田昭子, 西田悦雄 (概要) 平成19年度の新入生を対象に、学生がどの程度ICTを理解し活用しているか調査を実施。本研究では、ICT活用だけでなく、同じ素材を使用しても各学部・学科に特化した利用方法により、より理解し

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
8. デジタルコンテンツの活用が児童の学習と教師の指導力に及ぼす効果の一考察：神戸市公立所具悪口における算数教科授業を事例として	共	2007年6月	平成18年度日本科学教育学会研究会講演論文集、(於愛知教育大学)	やすい情報教育を実践していく方法論についても提案した <b>平井尊士</b> , 吉田和正, 高市英明, 植松貞夫 (概要) 本研究は、2006年から昨年度より教科理科から教科算数に進展した目的や効果について授業後に児童に対して行ったアンケート調査の結果と考察について成果をまとめたものである。科教研報 Vol.21 No.6, P.33~P.38 (本人担当部分) 論文の執筆, プロジェクトモデルの構築, 現場小学校での実証実験等。
9. デジタルコンテンツの活用が児童の学習効果と教師の指導方法に及ぼす効果の一考察：算数教科授業の2つの単元比較を事例として	共	2007年6月	第1回情報コミュニケーション学会研究大会講演論文集、(於園田女子大学)	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 植松貞夫 (概要) 本研究は、2006年度より取り組み始めた教科算数において1つの小学校を事例として実施。異なる2単元で行った授業の目的や効果について授業後に児童に対して行ったアンケート調査における主な調査項目と効果についてまとめたものである。Vol.4, no.1(2007-01), P.17~P.18, (本人担当部分) 論文の執筆, プロジェクトモデルの構築, 現場小学校での実証実験等
10. ICTの活用が教師の指導力に及ぼす効果の一考察：2市の公立小学校における算数教科授業実施のための事前意識調査を通して	共	2007年10月	第2回情報コミュニケーション学会研究大会講演論文集(於明治大学)	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 植松貞夫 (概要) 2006年度からは教科算数・数学において、ICT活用方法の検討・授業実施を行っている。結果、授業後の児童の意識調査から、算数は、①「興味関心度」「授業全体の理解度(わかった気になる)」に有効である。②活用する単元が難しい。③計算の活用以外では、体積の単元において視覚的な教材が効果を得る等の結果を得た。Vol.4, no.2(2007-02), P.34~P.37 (本人担当部分) 論文の執筆及びプロジェクトモデルの構築及び現場小学校での実証実験等。
11. Security Hole Patcher/Patch Catcher Qloc en engine[クック・エンジン]	共	2006年6月	第5回情報メディア学会研究大会講演論文集、(於鶴見大学)	<b>平井尊士</b> , 植松貞夫, 山本順一, クワンティ (株) (概要) 本発表は、初等・中等教育機関向けインターネットサーバの構築管理運用ソフトウェア『Qloc engine』の開発成果の発表である。また、本成果は、現在国際特許ビジネス取得。(前掲) (本人担当部分) 産学連携の体制の確立及び、市場の調査、モデルの構築及びシステム開発を担当。
12. ICTを活用した分かる授業の効果について	共	2006年3月	神戸発「ICTを活用したらもっと授業がわかった：市内小中学校におけるICT活用効果検証報告」資料pp.45-53	
13. ICT を有効活用するための授業方法の検討とその教育効果—神戸市内の小中学校の理科教科授業の実践を通して—(審査有)	共	2006年11月	第22回日本教育工学会全国大会講演論文集、(於関西大学)	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 植松貞夫, 清水康敬 (概要) 本研究は文部科学省委託研究事業として、2005年度の研究報告から、さらに詳細に1つの市の公立小中学校において、ICTの活用効果を測定し、定量的に比較検討を実施した。本稿では、文部科学省の調査研究の方法や結果も基盤にしながら、収集した主なデータの整理と分析・考察を行った。結果、デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 課題研究 学校や社会のニーズをとらえる情報教育の実践研究 K6-B107-1, P.143~P.146 (本人担当部分) 論文の執筆及びプロジェクトモデルの構築及び現場小学校での実証実験等
14. Methods of Efficiently Using Digital Content in Elementary School Science Education, and Implementation Research on the Dissemination Infrastructure (2)	共	2005年3月	SITE(Society for Information Technology and Teacher Education)2005 International Conference, (於米国)	<b>Takashi Hirai</b> , Kazuhiko Kawai, Toshiyuki Takahei, Iriko Kaneko, Toshikazu Ebisuzaki, Sadao Uemastu, Kazumasa Yoshida, Takashi Aoki, Tetsuo Kumamaru, Taisuke Matsuzaki, Kouji Nitta, Kayoko Ueda (概論) デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案を実施した。本発表では、デモ及びポスターによる発表である。 In this report we shall examine one case taken from the activities conducted at Kobe public schools from 2003 through the second academic semester of fiscal 2004, and report on the progress of efforts towards creating a system that combines the goals set in the model for the improvement of learning guidance techniques using IT and research and development improvement. P.3680~P.3686, 本人担当部分：論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
15. デジタルコンテンツを活用した教育効果向上のための実践授業および評価—小学校理科教科授業の実践を通して：アンケート調査結果より—	共	2005年11月	2005年度日本教育工学会研究会報告論文集、(於鳥取大学)	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 植松貞夫, 清水康敬 (概要) デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 P.25~P.30 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
16. データデジタルコンテンツを有効活用するための学習環境の整備とITを活用した教育効果向上のための実践授業および評価— 小学校理科教科授業の実践を通して —	共	2005年10月	第21回日本教育工学会全国大会講演論文集, (於徳島大学)	デルの構築および現場小学校での実証実験など <b>平井尊士</b> , 吉田和正, 植松貞夫, 清水康敬, 仁田光二 (概要) 結果、デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 課題研究 1デジタルコンテンツ活用実践評価K1-201-1, P. 49~P. 52 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
17. Disaster-Prevention Enlightenment in School Education Utilizing Digital Scientific Teaching Materials: A shared digital teaching material system (the ReKOS server system)	共	2005年1月	The United Nations World Conference on Disaster Reduction Poster/demo (於ポートピアホテル, 神戸国際会議場, 神戸国際展示場)	(Creating a Disaster Resilient Society) Booth title: For disaster risk reduction in an age of frequent occurrence of disaster Participating Organizations: Board of Education, City of Kobe, Ebisuzaki Computational Astrophysics Laboratory, Sadao Uematsu Laboratory, School of Library and Information Science, <b>Takashi Hirai</b> Laboratory, Information Science Center, Hyogo University. (概要) デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 本発表では、デモ及びポスターによる発表である。 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など Venues: Portopia Hotel, International Conference Center Kobe, Kobe International Exhibition Hall Exhibition Booths
18. 理科教育における情報メディアの活用に関する研究(3): 平成15年度神戸市の公立小学校での授業実施を通して	共	2004年6月	平成16年度日本科学教育学会 研究会報告集[科教研報] (於信州大学)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 高幣俊之, 戎崎俊一, 植松貞夫, 仁田光二, 吉田和正 (概要) 初等・中等教育機関において、教科理科で、情報メディアの共有化・再利用を目的にした開発と活用について、XMLを技術基盤とした「デジタルコンテンツ」の概念、実用的な学習環境の開発、活用方法について実践研究を2002年度より実施している。本発表は、2003年度の神戸市の公立の3小学校で行った取り組みと成果の一部について報告をする。Vol. 18, No. 6, P. 103~P. 106 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
19. 理科教育における情報メディアの活用に関する研究(2)	共	2004年3月	第66回情報処理学会全国大会講演論文集(3), (於慶応義塾大学)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 高幣俊之, 戎崎俊一, 植松貞夫, 松崎太亮, 吉田和正, 仁田光二, 朝水佳代子 (概要) 我々研究グループは、主にXML (LOM (Learning Object Metadata)) をベースとしたクライアントプラットフォーム“ReKOS”とそれらを学習資源として蓄積するXMLデータベースサーバ“Center KOS Server”の開発と小学校における理科教育での活用方法の経過を、教育的側面から主に各学会等で発表している。本稿では、これまでの経過を基に、教育側面から、現在のデジタルコンテンツの国際的な規格と併せ、我々が提案を行っているシステムの概要と現在の取り組みの中間報告を行うことにした。結果、デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 P. 3-3 ~P. 3-4, 1E-2 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
20. The Research on Utilization of Information Media for Science Education: The Development and Evaluation of the Presentation tool and XML Database System unified Meta-data type and Image Features Type	共	2004年3月	SITE (Society for Information Technology and Teacher Education) 2004 International Conference, (於米国アリゾナ)	<b>Takashi Hirai</b> , Kazuhiko Kawai, Toshiyuki Takahei, Toshikazu Ebisuzaki, Sadao Uematsu, Kazuo Kumada, Tetsuo Kumamaru, Tomonori Aoki, Kazumasa Yoshida, Taisuke Matsuzaki, Kouji Nitta, Kayoko Asamizu (概要) In the improvement operation of multimedia teaching materials common use environment are more complicated than the case of the textbook based teaching material. Vol. 2004, Issue. 1, 2004, P. 4657~P. 4662 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
21. デジタルコンテンツ用プラットフォーム“ReKOS”デモ	共	2004年3月	第66回情報処理学会全国大会講演論文集(3), (於慶応義塾大学)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 高幣俊之, 戎崎俊一, 金子委利子, 高沖英二, 町田聡 (概要) 我々は、XML (LOM (Learning Object Metadata)) をベースとしたクライアントプラットフォーム“ReKOS”の開発、教科理科での活用方法を、技術的側面から説明し、デモによる成果発表である。本成果発表は、特に国際的な規格と併せ、我々が提案を行っているシステムの概要と現在の取り組みの中間報告である。P. 3-183~P. 3-184, デ-06 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験の様子の



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
22. Methods of Efficiently Using Content in Elementary School Science Education, and Implementation Research on the Dissemination Infrastructure 「(査読付)」	共	2004年11月	SITE(Society for Information Technology and Teacher Education)2005 International Conference, (於米国)	デモによる成果発表 <b>Takashi Hirai</b> , Kazuhiko Kawai, Toshiyuki Takahei, Iriko Kaneko, Toshikazu Ebisuzaki, Sadao Uematsu, Kazuo Kumada, Tetsuo Kumamaru, Tomonori Aoki, Kazumasa Yoshida, Taisuke Matsuzaki, Kouji Nitta, Kayoko Asamizu (概要) デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案を実施した。 Vol. 2004, Issue. 1, 2004, P. 2681~P. 2688 (full Paper) (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
23. 産学官連携創出イノベーション事業「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォーム」の研究開発と学習指導の工夫改善モデル策定のための実践授業と評価(1)	共	2004年11月	平成16年度日本科学教育学会 研究会報告集[科教研報], (於神戸大学)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 高幣俊之, 金子委利子, 戎崎俊一, 植松貞夫, 他6名 (概要) 結果、デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 P. 5~P. 10 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
24. デジタルコンテンツを有効活用するための学習環境「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォーム」の研究開発と学習指導の工夫改善モデル策定のための授業実践と評価(2)	共	2004年11月	平成16年度日本教育工学会研究報告論文集, (於東北学院大学)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 高幣俊之, 金子委利子, 戎崎俊一, 植松貞夫, 他6名 (概要) 継続研究である。結果、デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案ができた。 P. 69~P. 72 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトモデルの構築および現場小学校での実証実験など
25. Security Hole Patcher / Patch Catcher Qloc engine [クワック・エンジン]	共	2003年6月	第2回情報メディア学会研究大会講演論文集, (於科学振興事業団ホール)	クワンティ(株), 植松貞夫, 山本順一, <b>平井尊士</b> (概要) 本発表は、初等・中等教育機関向けインターネットサーバの構築管理運用ソフトウェア『Qloc engine』のデモによる成果報告である。本発表により今後の初等中等教育機関の情報環境整備に示唆を与える成果でもある。尚、本発表内容については、現在国際特許ビジネス申請も取得。(前掲) (本人担当部分) 産学連携の体制の確立及び、市場の調査、モデルの構築及びシステム開発を担当。
26. 理科教育における情報メディアの活用に関する研究：デジタルコンテンツ用プラットフォームを利用した小学校における教案作成の特徴と構造	共	2003年6月	第2回情報メディア学会研究大会講演論文集, (於科学振興事業団ホール)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 高幣俊之, 戎崎俊一, 限田和男, 吉田和正, 青木典司, 植松貞夫 (概要) 小学校教育現場では、今まで数多くのマルチメディア・コンテンツが開発され販売もしくはは無償で配布されてきたが、独自のインターフェイスで作られてきた。本稿では、教員が自らの授業案に沿って、素材を自由に並び替えられオリジナルの素材を容易に追加できるプラットフォームの仕組みの特徴についての成果報告を行う。結果、授業方法の1提案ができた。 (本人担当部分) 論文の執筆およびモデルの構築およびシステム開発を担当。
27. 共通プラットフォーム“ReKOS”を用いたデジタル教案の共有科「宇宙と地球：空をみあげると」を題材にして「(審査有)」	共	2003年10月	第19回日本教育工学会全国大会講演論文集, (於岩手県立大学)	<b>平井尊士</b> , 川井和彦, 戎崎俊一, 限田和男, 吉田和正, 青木典司, 松崎大亮, 植松貞夫 (概要) 本稿では、デジタルコンテンツを活用した授業構成手法の1提案を実証した。本実証実験は、神戸市教育委員会を中心として、平成15年度より「理科すきやねん神戸：先進的教育用デジタルコンテンツの開発と利用」研究会を設置し、実施スタートしたものである。 課題採択研究K4-205-5 P. 563~P. 566 (本人担当部分) 論文の執筆およびプロジェクトの構築および現場小学校での実証実験など。
28. 初等・中等教育機関向けインターネットサーバ『e-Elic's』	共	2002年5月	第1回情報メディア学会研究大会発表資料, (於日本科学未来館)	クワンティ(株), 植松貞夫, 山本順一, 北研二, 柘植寛, <b>平井尊士</b> (概要) 本発表は、小中高等学校向けインターネットサーバ・イントラネットサーバの構築管理運用ソフトウェア『e-Elic's』のデモ発表による研究成果発表である。結果、今後の初等中等教育機関の情報環境整備に示唆を与える成果である。P. 33 (本人担当部分) モデルの構築およびシステム開発を担当。
29. 初等・中等教育機関等に寄与するインターネット環境の整備と試み	共	2002年11月	第50回日本図書館情報学会講演論文集, (於明星大学)	クワンティ(株), <b>平井尊士</b> , 濱田充男, 寺澤陽一郎, 植松貞夫, 山本順一, 北研二 (概要) 本発表は、初等・中等教育機関向けインターネットサーバの構築管理運用ソフトウェア『e-Elic's』のデモによる研究成果の発表である。導入後の報告、実運用に対する問題点、現場の認識の報告でもある。結果、今後の初等中等教育機関の情報環境整備に示唆を与える成果である。 (本人担当部分) 論文の執筆およびモデルの構築およびシステム開発を担当。
30. 初等・中等教育機関等に寄与する	共	2002年11月	第18回日本教育工学会	<b>平井尊士</b> , 河野稔, 寺澤陽一郎, 濱田充男, 植松貞

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
インターネット環境の整備と試み			大会講演論文集、(於長岡技術科学大学)	夫 (概要) 初等・中等教育の学習環境において、Web上で流通による学習コンテンツの開発が盛んに議論されている。我々は、根幹部分である「インターネット利用」に特化したインターネットサーバーの研究開発を2000年8月より進めている。本稿では、開発システムに関する評価と改善点を検証し、試みや今後の方向性について成果報告を行った。結果、今後の初等教育機関の情報環境整備に示唆を与える成果である。P. 323~P. 324 (本人担当部分) 論文の執筆およびモデルの構築およびシステム開発を担当。
31. Dimensionality Reduction of Vector Space Information Retrieval Model based on Nonnegative Matrix Factorization	共	2001年9月	KES' 2001 学会講演論文集 (B5:knowledge-Based systems, knowledge discovery II)	S. Tsuge, M. Shishibori, S. Kuroiwa, <b>T. Hirai</b> , K. Kita (概要) 本発表は、ベクトル空間モデルの問題点を解決するためにNon-negative Matrix Factorization(NFM) 用いたベクトル空間モデルの次元圧縮手法を提案した。これは、非負行列を2つの非負行列の積に分解する手法であり、分解された非負の2行列は基底行列とその基底のもとでの座標値から成る行列ともなすことができる。このように、NFM は単純な繰り返しの演算のみで実行可能であるため、大規模な行列に対して、計算コストや記憶容量の点で他の次元削減の手法よりも優れている。MEDLINE コレクションを用いた検索実験を行い、NFM は通常のベクトル空間モデルよりも高い検索性能を示すことができた。 P. 367~P. 371 (本人担当部分) モデルの構築・シミュレーションの結果の分析を担当。
32. 初等・中等教育機関の情報教育における学習環境整備の問題とその解決	共	2001年9月	第63回(平成13年後期)情報処理学会全国大会講演論文集、(於山口大学)	<b>平井尊士</b> , 河野稔, 寺澤陽一郎, 植田道成, 植松貞夫, 志保田務 (概要) 本発表は、初等・中等教育機関における情報技術を利用した学習環境モデルを構築するため、パッケージとしての機能の提示である。昨年度発表し、改良しているインターネットサーバ機能と、今回提案するグループウェア機能の2機能を中心に提示した。結果、更に情報コミュニケーションも視野に入れた情報環境を児童生徒に提案することができた。P. 4-371~P. 4-372 D-22 (本人担当部分) 論文の構築およびモデルの構築およびシステム開発を担当。
33. 初等・中等教育機関におけるコンピュータを利用した学習環境の実際と展開	共	2001年9月	第63回(平成13年後期)情報処理学会全国大会講演論文集、(於山口大学)	<b>平井尊士</b> , 河野稔, 寺澤陽一郎, 宇土正浩, 天羽恵将 (概要) 我々は、初等中等教育機関のコンピュータ利用環境について環境枠をメディアセンター概念とし、実用的な学習環境モデルの研究・開発を続けている。本稿では、①インターネットサーバ機能②学校コミュニケーショングループウェア機能③自由に利用できる教育コンテンツボックス機能の3点について、整備モデルの展開方法を論じた。結果今後の小中高等学校における環境整備のあり方が提案できた。P. 4-207~P. 4-208 6S-05 (本人担当部分) 論文の章立ておよびシステム開発を担当。
34. 図書館利用教育を通しての情報活用教育の実行	共	2001年7月	第9回(平成13年度)情報教育方法研究発表会予稿集、(於私学会館)	藤間真, <b>平井尊士</b> , 志保田務 (概要) 大学の情報活用教育は、各大学のカリキュラム上の展開には急速なものがある。その実現には2つの障壁がある。前者は、受講者間のスキル格差、後者は、コンピュータの操作教育に終わる。本稿では、後者に着目し、コンピュータ学習上に、知識の組織化の実現を図り、図書館利用、文献検索法を学び、受講者の情報活用能力を養うことを目的とし考察した。結果、図書館を利用する教育が学生の情報教育の1つの貢献となった。A-3 P. 6~P. 7 (本人担当部分) 論文の章立ておよび演習方法のモデル化を担当。
35. Relevance Feedback with Support Vector Machine for Information Retrieval	共	2001年5月	19th ICCPOL 学会講演論文集、(正式名称) 19th International Conference on Computer Processing of Oriental Languages.(於中国)	Satoru Tsuge, Masami Shishibori, Shingo Kuroiwa, Yasuhito Tanaka, <b>Takashi Hirai</b> , Ryo Okamoto, Kenji Kita (概要) 本発表は、ベクトル空間モデル(Vector Space Model:VSM)について提案。検索対象文書や検索質問を多次元ベクトルで表現するという特徴をもっている。が、このベクトルは1案に高次元であるため、計算機のメモリによる制限や検索時間の増大などの問題が生じる。次元が増加するにつれ、文章中に含まれる不必要な単語が検索制度を低下させてしまう。今後解決するように進めていく。P. 35~P. 40 (本人担当部分) モデルの構築およびシミュレーションの結果についての分析を担当。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
36. 図書館学教育・図書館利用教育におけるWeb教材・ビデオ教材の活用：調査のための予備的考察	共	2001年3月	第42回日本図書館研究会研究大会予稿集，（於同志社大学）	前川和子， <b>平井尊士</b> ，志保田務 （概要）利用教育は、利用方法や情報検索・蔵書検索の方法を案内し教示する。図書館サービス活動の一環として実施されるが、大学では学生の基礎教育として必要性が認識され、指導されている。これに着目し、Web教材、ビデオ教材が活用される形が多く、モデルを提案した。結果、各種情報メディアを活用することが学習効果をあげる結果となった。P. 37～P. 40 （本人担当部分）各大学における利用教育等の調査、分析を担当。
37. 初等・中等教育機関における情報技術を利用した学習環境の整備モデルの再検討	共	2001年11月	第17回日本教育工学会大会講演論文集，（於鹿児島大学）	<b>平井尊士</b> ，河野稔，寺澤陽一郎，宇土正浩，植松貞夫 （概要）本稿では、環境を考察するために機能的、技術的、建築的から再検討を行い、今後の実用的モデルのマネージメント（構築・運用・継続）を提案した。結果、今後の初等中等教育機関の情報環境整備に大きな示唆を与えることができた。2p. 13-09 P. 631～P. 632 （本人担当部分）論文の執筆およびモデルの構築およびシステム開発を担当。
38. 初等・中等教育機関における学習環境モデルの構築における進展：教育	共	2001年10月	第3回情報メディア学会研究大会発表資料，（於筑波大学）	<b>平井尊士</b> ，寺澤陽一郎，植松貞夫 （概要）本発表は、「インターネット」「コミュニケーション促進」「教材利用」を中心に研究開発を行った。目的は標準的、実用的学習環境モデルの構築である。学校LOMに着目し、多面的利用の為に、学校図書館機能の融合を検討した。結果、児童生徒が主に調べ学習で活用するデジタルコンテンツの共有方法について明確になった。P. 11～P. 14 （本人担当部分）論文の執筆および学校LOMについての調査、分析を担当。
39. 通信可能帯域によるトラフィック制御通信方式	共	2000年9月	平成12年度電気関連学会北陸大会講演論文集，（於北陸先端科学技術大学院大学）	西田悦雄， <b>平井尊士</b> ，日比野靖 （概要）本稿は、転送制御という観点ではなく、REDのルータ待ち列長の計算に基づく網の転送状態を送信元のクライアントにフィードバック、クライアントの呼発生制御方式を提案し、シミュレーションを行った結果についての報告である。P. 146 （本人担当部分）シミュレーションを担当。
40. 情報関連資格取得を通しての情報活用術	共	2000年7月	平成12年度（第8回）情報教育方法研究発表会予稿集，（於私学会館）	志保田務， <b>平井尊士</b> ，中崎修一，西田悦雄，藤間真 （概要）本研究は、入学年度から履修可能な情報処理基礎の情報処理教育と、2年次以降に履修が設定される資格課程「情報検索演習」の教育を「連立（二重評価または連結）させることにより、情報活用科目学習の動機付けを強化する提案を行った。結果、情報活用教育の実践を実施することができた。A-6 P. 12～P. 13 （本人担当部分）論文の章立ておよび実講義をモデル化に沿って実施。
41. 情報教育における学校図書館の活用：インターネットサーバーの構築を通して	共	2000年6月	設立総会&第1回情報メディア学会研究大会発表資料，（於筑波大学）	<b>平井尊士</b> ，西田悦雄 （概要）本稿は、情報化に対応すべく学校図書館を活用した情報教育の環境（インフラストラクチャー）要素を提示し、学校図書館の情報環境整備の実現を意図した。結果、児童生徒が安心した環境で情報教育を受けることが可能になった。P. 7～P. 11 （本人担当部分）論文の章立て・情報化の現状についての概論を担当。
42. 学校図書館における「情報化」の現状と課題：サンプル調査をベースとして考察	共	2000年5月	第51回日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱，（於同志社大学）	<b>平井尊士</b> ，西田悦雄，向畑久仁 （概要）文部科学省における情報化指向は、学校図書館環境の情報化実現と連係する。本稿では、サンプル調査平成12年1月実施をベースに情報化の進捗を調査し今後の情報化に対応する学校図書館システム構築の要素を提示した。結果学校図書館の活用方法の1つのあり方について提案できた。P. 51～P. 54 （本人担当部分）論文の章立て・情報化の現状についての概論を担当。
43. 学校図書館と「情報化」の一考察	共	2000年2月	第41回日本図書館研究会研究大会予稿集，（於阪南大学）	<b>平井尊士</b> ，志保田務，中崎修一 （概要）本稿は、学校情報システムについての検討である。情報化の省令科目との比較『中学・高校件名標目表』との比較、アンケート調査（兵庫県私立学校の調査）について論じた。結果、今後新学習指導要領の中で児童生徒は情報教育を推進していく中で、図書館を上手に活用することが学習効果につながることをまとめた。P. 43～P. 58 （本人担当部分）論文の章立ておよび対象学校へのアンケートの実施分析を担当。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
44. The 2nd international conference on new technologies in teaching and learning cheese .	共	2000年12月	The 2nd ICNTTL 数学国際研究会論文集 (正式名称) The 2nd International conference on new technologies in teaching and learning cheese. (於GUANGXI NORMAL UNIVERSITY中国桂林)	Yasuhito. T, <b>平井尊士</b> , Kenji Kita (概要) 本発表は、兵庫大学の授業において、マルチメディア環境が学習・教育に必要なものであるか、新しいガイドラインの検討を行った。具体的には、CD-ROM等のマルチメディアを利用して行った。CD-ROMを用いた教育は、大学および短期大学等の教育だけでなく、高校や中学のオンライン教育においても有効であることが確認できた。P. 147～P. 151  (本人担当部分) 実際の授業方法の提案および分析を担当。
45. 情報教育環境と「教育コンテンツボックス」の構築：学校図書館を対象とした一提示	共	2000年11月	第48回日本図書館情報学会研究大会発表要綱, (於亜細亜大学)	<b>平井尊士</b> , 西田悦雄, 志保田務, 植田道成, 寺澤陽一郎, 中村静子 (概要) 学校教育の情報教育整備が進行しているが、行政側の施策には、構造的に学校図書館との関係が難しい。本稿では、学校図書館を中心とした教育環境「メディアセンターソリューション」を追求し「デジタル教育コンテンツボックス」(DCB(Digital ContentsBox)) の基本設計を行い、その概要について発表した。P. 10～P. 13 (本人担当部分) 論文の章立て及びシステムの基本設計を担当。
46. 初等・中等教育機関向け情報教育(メディアセンターソリューション)パッケージシステム (Elic's)	共	2000年10月	第61回(平成12年後期)情報処理学会全国大会講演論文集, (於愛媛大学)	西田悦雄, 植田道成, <b>平井尊士</b> , 志保田務, 山本順一 (概要) 本稿は、「情報化」の学校教育機関向けインターネットサーバ管理ツールの開発成果である。そこで、教育現場の場の要素を網羅したパッケージのデモ発表を実施した。本提案の詳細は <a href="http://www.qwanty.com/">http://www.qwanty.com/</a> に掲載。P. 4-395～P. 4-396デ-1 (本人担当部分) ソリューションのモデル化・実際のβ版のシステムの開発を担当。
47. 初等・中等教育機関向けメディアセンターソリューションパッケージシステムの構築		2000年10月	第61回(平成12年後期)情報処理学会全国大会講演論文集, (於愛媛大学)	<b>平井尊士</b> , 植田道成, 西田悦雄, 志保田務, 山本順一 (概要) 初等・中等教育機関の情報教育に対応すべく学校図書館を活用した教育環境の場、「メディアセンター」ソリューションを提案する。具体的取組みは、①インターネット接続サーバ、②自由に利用できる教育コンテンツボックス、③学校図書館の3機能を実現する。本発表では、これらを相互的に連携させることを提案した。結果今後のサーバ環境構築のビジネスモデルとなった。pp. 4-361～4-362 6S-4 (本人担当部分) 論文の章立ておよび実際のβ版システムの開発を担当。
48. ライブラリーツールをベースとした「情報検索演習」「情報機器論」授業のコース的展開と想定効果	共	1999年7月	平成11年度情報教育方法研究発表会予稿集, (於私学会館)	志保田務, <b>平井尊士</b> , 藤間真 (概要) 高校学校に2003年「情報」科目の開講に関心が深まる中、情報利用及び情報機器・視覚機器の実用のための教科・科目の準備が必要不可欠である。本稿で提案する方法は、図書館をベースとした情報機器の体験学習を意図する。結果、図書館を活用することにより、調べ学習時に大きな学習効果を上げることができる。A5, P. 10～P. 11 (本人担当部分) 論文の章立ておよび方法論の構築、執筆を担当。
49. 図書館の設備・機器に関する環境重視型思考の展開：利用者に優しい設備・機器とその保存・廃棄	共	1999年5月	第50回日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱, (於東洋大学)	<b>平井尊士</b> , 向畑久仁, 志保田務 (概要) 図書館は、設備・機器の急速な進展がある。本稿は、当問題に検討の価値を見て評価方法を求め2・3の視点から検討することにより大学図書館の機器のあり方について具体的に提案できた。今後PFI事業等を実施するうえで図書館内部の構築のモデルとなる。P. 13～P. 16 (本人担当部分) 論文の章立ておよび各機器の調査分析執筆を担当。
50. 技術的側面より見た大学図書館のグループウェア的思考の展開技術的側面より見た大学図書館の展望：図書館と機器	単	1999年3月	第40回日本図書館研究会予稿集, (於京都大学)	(概要) 本稿では、図書館の様々な機器と業務システムを基盤に機器の枠組みを提案した。さらに「メディア」「情報」「機器環境」「身体障害者」をキーに、大学図書館のマネジメントについても示唆することによって、大学図書館のマネジメントのあり方について提案することができた。P. 8～P. 15
51. 司書科目における書誌データベース構築演習における一手法の考察	共	1999年1月	第47回日本図書館情報学会研究大会発表要綱, (於大阪市立大学)	<b>平井尊士</b> , 北克一, 志保田務 (概要) 本発表では、ネットワーク時代下の「情報化」に対応する「情報検索演習」「情報機器論」「資料組織演習」の演習方法のパターンを確認し、その発展展開の一手法を提示した。また受講生自身によるデータベース・検索システムを支援するプラ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
52. 学術情報ネットワークから見た図書館としての役割—図書館を学術情報流通機関として捉える—	共	1997年11月	平成9年度私立大学図書館協会西部地区研究会研究会資料集、(於広島工業大学)	ットホームを提示した。結果、本提案によって、情報教育関係演習にも有効な影響を与えることができた。P.5~P.8 (本人担当部分) 論文の章立て及び演習システムのモデル化、構築執筆を担当。 <b>平井尊士</b> 、河野稔、中崎修一 (概要) 大学図書館の利用者は、目的の情報を検索収集し、加工して利用する。本稿では、図書館を体系化するために、必要不可欠の図書館情報システムのあり方、学術流通機関のあり方について、「情報」「知識」「データベース」の観点から、学術情報センターが提供するシステムのメカニズムを探究し小規模大学の情報教育環境について1つのモデルを示した。P.6~P.10 (本人担当部分) 章立て、執筆を担当。
53. 図書館情報システム構築による考察	共	1996年12月	平成8年度情報処理教育研究集会(文部省)予稿集、(於名古屋工業大学)	<b>平井尊士</b> 、中崎修一 (概要) 本稿では、文科系大学における学内ネットワークの整備方法と業者の関連、生涯教育センターを構築する場合の情報処理センターと図書館の関連、学生への影響について分析した。結果、今後の文化系学生のいる大学の情報教育環境についてモデルを提案することができた。BZ, 2-5 P.1~P.4 (本人担当部分) 章立て・執筆を担当。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. [地域行政報告書]兵庫県稲美町立稲美北中学校大規模改造検討委員会報告書	共	2014年3月	兵庫県稲美町立稲美北中学校大規模改造検討委員会	<b>平井尊士(委員長)</b> 、富永雅文、小鍛冶正、大山健次、北谷錦也、柏木麻里 (概要) 兵庫県稲美町では、今後、町立の小中学校の大規模改修のモデルを作成することとなった。本校を例に、今後の策定方針などを決定し、報告書としてまとめた。
2. [教育委員会研究成果報告書]平成20年度 神戸市立井吹西小学校研究報告書(井吹西の教育「ひびく心・きり拓く力・かがやく瞳」)	共	2009年3月	神戸市立井吹西小学校	神戸市「わかる授業」推進学校3年目の成果をまとめた報告書である。 (担当:執筆部分) 『ICTを活用した取り組み:教科書に準拠したフラッシュ教材の開発と指導方法の一考察:神戸市立井吹西小学校第3学年「形を調べよう」の実践授業を通して』(p.137-140)
3. [地域行政報告書]地場作物を活用した実践力ある食育指導者育成	共	2009年3月	兵庫大学附属総合科学研究所	兵庫大学附属総合研究所プロジェクトとして実施。兵庫県立東播磨生活創造センター「かこむ」において、5週間「食は生きる力、皆で食べて考えよう」と題して、公開講座を実施し、その活動報告も踏まえ、報告書を作成した。 pp.11-134 (主な本人の担当部分) 第5回「今の食をどう見て・どう考える!~食生活のバランス~」を担当した。
4. [教育委員会研究成果報告書]神戸ICTを活用したら分かる授業(算数)研究会:平成17年~19年度制作・サンプルコンテンツCD-ROM	共	2008年6月	神戸市総合教育センター	(監修・制作) 神戸市教育委員会、神戸市総合教育センター、 <b>兵庫大学平井尊士研究室</b> 、武庫川女子大学小野賢太郎研究室 (概要) 学官連携事業としてテーマ内容を実施。
5. [教育委員会研究成果報告書]町田市 授業に役立つデジタル教材作りをめざして:アンケート分析による一考察	共	2008年3月	町田市教育センター	東京都町田市は2006年度事業「学校教育に関わる「調査・研究」」を実施。学校教育部の「ICT関係」を教育センター1本化し、学校ネットワーク事業として位置づけ、ICT利活用を図る。平成19年度は、授業に役立つデジタル教材をテーマに「調査・研究」部門と「ICT関係」部門が共同で研究を実施本報告書に成果をまとめた。 全32頁および附属物 (本人担当部分) 報告書全般におよぶアンケートに基づく分析・考察と執筆
6. [教育委員会研究成果報告書]平成19年度 神戸市立井吹西小学校研究報告書(井吹西の教育「ひびく心・きり拓く力・かがやく瞳」)	共	2008年3月	神戸市立井吹西小学校	(概要) 神戸市「わかる授業」推進学校2年目の成果をまとめた研究報告書。 (本人担当部分) 『わかる授業づくり』への提言(p.113-116)
7. [教育委員会研究成果報告書]平成18年度「理科大好きプラン」神戸市SPP(Science Partnership Project)事業「教員研修」実施報告書	共	2007年3月	神戸市総合教育センター「授業づくり支援室」「大好きやねん!神戸ICTを活用したら分かる授業研究会」	文部科学省SPP事業採択事業の報告書。本報告書は、平成18年度神戸市教育委員会において、学校現場の中心的役割を担う教師のより高度な資質向上を目指し、従来から本市が取り組んできた各種情報化研修の中に本事業を位置づけ、実施してきた内容をまとめたものである。 全28頁 (本人担当部分) 本報告書の編集、2.平成18年度サイエンスパートナーシッププロジェクト実施報告書

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
8. [教育委員会研究成果報告書]町田市教育情報ネットワーク事業報告書：ICTの利活用による「分かる授業」をめざして	共	2007年3月	町田市教育センター	(P. 2～P. 12) , 3. 取り組みを振り返って (P. 13～P. 15) 本報告書は、東京都町田市（東京都）で2005年度を初年度とした町田市教育情報ネットワークの整備状況とその成果をまとめたものである。 全27頁 (本人担当部分) 4. 先生からのアンケートに基づく分析・考察 (P. 12～P. 20) , 5. 児童からのアンケートに基づく分析・考察 (P. 21～P. 26)
9. [教育委員会研究成果報告書]SPP-B平成18年度理科大好きプラン神戸市SPP (Science Partnership Project) 事業 実施報告書	共	2007年3月	「大好きやねん！神戸ICTを活用したら分かる授業研究会」神戸市総合教育センター	文部科学省SPP-B事業の目的は、実施後の評価にも重点を置いた。本報告書は、平成18年度に実施実践授業について、教師と研究会が共同で実践した内容と児童自身の自己評価から得た知見の両面からまとめた。神戸市が平成18年度から開始した「分かる授業」の取り組みの提言にもなる。全38頁 (本人担当部分) 本報告書の編集, 7. 実証授業の効果の検証方法と考察 (P. 18) , 参考資料1: 2004年度研究成果「教科教育におけるデジタルコンテンツの活用と学習効果に関する実証的研究 (P. 15～P. 32) , 参考資料2: アンケート製作(2ヵ年)
10. [研究会発表]メディアの活用が児童の学習効果と教師の指導方法及ばす効果の一考察	単	2007年10月	日本図書館研究会第248回研究会 (於大阪市立弁天町市民学習センター)	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 清水康敬, 植松貞夫 (主催) 神戸市教育委員会, メディア教育開発センター, 協力: NTTデータ (全体概要) 平成17年度「教育の情報化強化月間」事業 (文部科学省)。本報告会は、神戸市の小中高等学校において、3年間事業の結果、ICT利活用が他教科にも広がりをはじめています。ICTの活用による学力向上や教育効果の分析と評価、教育行政、産学官連携体制等を踏まえて神戸の成果を検証・報告します。
11. [教育委員会研究成果報告書]. 教育改革推進に関する報告書	共	2007年10月	加古川市教育改革推進協議会	委員メンバー 石坂文昭, <b>平井尊士</b> (他合計14名) (概要) 加古川市において、平成17年度より教育改革推進本部を中心に進め、平成18年10月に教育改革推進協議会を設置。本報告書は、中学生の健全育成アンケート、加古川市独自で実施した学力調査等のデータに基づいて、加古川市の教育の現状を分析し、教育課題の抽出を行い、「加古川市教育重点行動計画」の策定についてまとめたものである。 全19頁
12. [研究会報告]メディアの活用が児童の学習効果と教師の指導方法及ばす効果の一考察	単	2007年10月	日本図書館研究会第248回研究会 (於大阪市立弁天町市民学習センター)	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 清水康敬, 植松貞夫 (主催) 神戸市教育委員会 共催: メディア教育開発センター, (協力) NTTデータ (全体概要) 平成17年度「教育の情報化強化月間」事業 (文部科学省)。本報告会は、神戸市の小中高等学校において、3年間取り組んできた結果、ICT利活用が他教科にも広がりをはじめている。ICTの活用による学力向上・教育効果の分析と評価、教育行政、産学官連携体制等を踏まえて神戸の成果を検証・報告します。
13. [教育委員会研究成果報告書]2006年・2007年度 町田市教育委員会研究推進校 町田市立大蔵小学校 研究のまとめ 報告書	共	2007年10月	町田市立大蔵小学校	(研究テーマ) : 自ら考える子どもの育成: ICTの活用を通して 町田市立大蔵小学校は、2006年・2007年度町田市教育委員会研究推進校としてICTの効果的な活用を図りながら研究を深めてきた。その実践報告を本報告書でまとめたものである。 (指導講師) 年間講師: 柴宿俊文 2006年度: 小川広樹, <b>平井尊士</b> , 三枝隆, 前川明 2007年度: 岩下和夫, 岡野隆, 高橋定仁, 三枝隆, 飯島正 (支援) 町田市教育センター, NTTデータ, NHKエンジニアリング, NHK技術研究所, NHKエンジニアリングサービス
14. [文部科学省委託事業]教育の情報化の推進に資する研究 (ITを活用した指導の効果等の調査) 報告書 (科学研究費研究・文部科学省関係研究成果報告書)	共	2006年3月	「ITを活用した指導の効果等の調査」研究会・メディア教育開発センター	(運営及び執筆委員) : 清水康敬, 大林誠, 川島芳昭, 小泉力一, 野中陽一, 平松茂, 堀田龍也, 松原伸一, 毛利靖, 宮田仁, 山本朋弘, 中村武弘, 梶本佳昭, 林偵久, 中川一史, <b>平井尊士</b> , 山原智, 横山隆光 (概要) 本プロジェクトでは、全国各地のICTを活用した実証的な授業を実施し、ICTを活用した場合とそうでない場合と比較して児童生徒の学力向上に関する効果についての評価を実施した。本研究の成果は、ICTを活用することによって児童生徒の学力が向上することを示しており、今後我が国における教育の情報化の推進に役立つものと期待される。 全154頁
15. [研究会発表]ICTを活用した分かる授業の効果について	共	2006年3月	神戸発「ICTを活用した分かる授業」研究会	<b>平井尊士</b> , 吉田和正, 清水康敬, 植松貞夫 主催: 神戸市教育委員会, 共催: メディア教育開発センター, 協力: NTTデータ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
16. [研究会発表]平成17年度「理科大好きやんねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用」研究会最終報告会	単	2006年3月	神戸市教育委員会（於神戸市総合教育センター）	<p>けるICT活用効果検証報告」資料pp.45-53,（於日本科学技術館）</p> <p>（全体概要）平成17年度「教育の情報化強化月間」事業（文部科学省） 本報告会は、神戸市の小・中・高等学校において、理科教育を中心とするICTを活用した分かる授業推進を3年間取り組んできた結果、ICT利活用が他教科にも広がりをはじめています。ICTの活用による学力向上や教育効果の分析と評価、実践授業を支えた教育行政、産学官連携体制等を踏まえて神戸の成果を検証・報告。</p> <p>本年度（平成17年度）取組み統括デジタルコンテンツを活用した授業実施結果を分析し、「わかる授業」の実現を図るために必要なデジタルコンテンツの活用方法、指導案の作成など効果的なモデルの策定について、まとめを行うと共に1年間の本事業活動の統括を行う。</p>
17. [教育委員会研究成果報告書]理科大好きやねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用研究会研究報告書（2005度）「初等中等教育機関の教科教育におけるIT活用に関する実証研究」Vol.1, No.1	共	2005年6月	神戸市教育委員会事務局総務部調査課・神戸市総合教育センター研修室（情報）	<p>植松貞夫、<b>平井尊士</b>、丸一功光、松崎太亮、青木典司、吉田和正、</p> <p>（概要）本報告誌は、平成17年6月、神戸市内の学校教育の分野の「教育の情報化の進展」を目指し、「新神戸市教育情報ネットワークシステム改修委員会」と併せ、「神戸の教育の情報化推進委員会」の発足記念号として刊行。内容は、「神戸の教育の情報化」事業の主旨、実践論文3編、研究報告5編、開発デジタルコンテンツなどを盛り込んだ内容である。全86頁</p> <p>（本人担当部分）委員としてプロジェクトに参画、フィールド研究および全体の章立て、策定モデルを策定する部分、編集を担当。</p>
18. [教育委員会研究成果報告書]平成16年度理科大好きプラン神戸市SP（Science Partnership Program）事業実施報告書（平成16年度）	共	2005年3月	神戸市教育委員会事務局総務部庶務課情報企画係・理科大好きやねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用研究会	<p>編者：<b>平井尊士</b>、松崎太亮、吉田和正、共著者：<b>平井尊士</b>、吉田和正、青木典司、川井和彦、松崎太亮（概要）</p> <p>事務局：神戸市教育委員会事務局総務部庶務課情報企画係、タイトル同様 全30頁</p> <p>（本人担当部分）研究会研究委員としてプロジェクトに参画し、フィールド研究および全体の章立て、策定モデルの構築。</p>
19. [科学研究費研究・文部科学省関係研究成果報告書] ITを活用した教科指導の改善のための調査研究事業報告書（平成16年度）日本教育工学会（文部科学省委託事業）	共	2005年3月	日本教育工学会（文部科学省委託事業）	<p>清水康敬、近藤藤、石川賢、小泉カエ、小柳和喜雄、佐々木真、新地辰朗、高比良美詠子、中山実、南部昌敏、野中陽一、波多野和彦、<b>平井尊士</b>、平松茂、宮田仁、村瀬康一郎、山本朋弘</p> <p>（概要）本報告書は、文部科学省から「ITを活用した教科指導の改善のための調査研究事業」の委託を受け、研究を実施。具体的な内容は、学校の教員を対象として、教科指導の場面においてICTを活用することによって児童生徒の学力が向上するかについてアンケート調査を実施した。結果、具体的な指導場面におけるIT活用が、児童生徒の学力向上に関連する度合いを示すことができた。従って学力向上に深い指導場面においては、今後活用を促すことに力をいれることができる。また学力向上に関連が低い指導場面については、今後種々検討する必要があることがわかった。</p>
20. [科学研究費研究・文部科学省関係研究成果報告書]2020年の科学教育のあり方に関する企画調査研究（課題番号：1663008）	共	2005年3月	国立教育政策研究所	<p>本研究は、平成16年度科学研究費補助金基盤研究（C）（2）（企画調査研究）による研究である。</p> <p>研究の内容は、2020年ごろに科学教育の研究・実践の先頭に立って活躍しているであろう研究者・現場の先生方の叡智を結集して、我が国の科学教育の近未来像を描き、それを実現させるアプローチについて提案することにより、教育課程、教科内容、教員養成、学習環境等必要とされる様々な研究の足がかりを作ることを目的としまとめたものである。</p> <p>研究代表者：吉岡亮衛 全150頁 本人担当部分：P.29～P.131 共著者：小松幸廣、坂谷内勝、藤田剛志、清水克彦、益子典文、平井尊士</p>
21. [研究会発表]平成17年度「理科大好きやんねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用」研究会中間報告会	共	2005年10月	神戸市教育委員会（於神戸市総合教育センター）	<p>コーディネータ：◎<b>平井尊士</b>、現状報告：松崎太亮、吉田和正、青木典司、川井和彦、実践報告、久保田、山本、妹尾、パネリスト：戎崎俊一、植松貞夫、小川雄三、</p> <p>（本人担当部分）コーディネータ</p>
22. [地域行政報告書]加古川市地域新エネルギービジョン（重点化調査）報告書	共	2005年	加古川市企画部政策企画局政策企画課	<p>共著者（兼委員）井内善臣、<b>平井尊士</b>、橋本清、大辻利紀、杉江和美、高橋智恵美、山内直美、竹内香、藤原崇（加古川市企画部長）、オブザーバー、経済産業省近畿経済産業局、（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構、</p> <p>（概要）本報告書は、平成15年度新エネルギービジョンを踏まえ、具体的な新エネルギーの導入方策及</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
23. [平成15年度文部科学省委託事業] 科学技術分野の研究成果に基づく学習資源の理科教材への効果的な活用手法と普及基盤に関する調査研究報告書	共	2004年3月	三菱総合研究所	<p>びエネルギーの抱える課題を通して、加古川市エネルギービジョン（重点化調査）として取りまとめた。本ビジョンは、加古川市が、新エネルギーを導入する方策を提案するとともに、エネルギーに視点をおいた環境ビジネスの振興による地域経済の活性化や地域の活性化方策も併せて提案している。 全87ページ</p> <p>（担当部分）委員会委員、選考会審査員、および委員会のアドバイザーとして参画し、全体の章立て、ビジョンを策定する部分を担当。</p> <p>鈴木克明、向後千春、<u>平井尊士</u>、妻木貴雄、金子英樹、阿部敏視、高橋尚紀、川井和彦、高幣俊之 （概要）本研究報告書は、「サイエンスパートナーシッププログラム事業」の一つとして、学習資源構成手法や学習資源の利用環境のあり方について、実証等を交え検討し、学習資源の開発やその普及上の課題を抽出した上で、技術動向を踏まえ提言を行い、これらの調査結果を今後の我が国の理科・科学技術教育等に反映することを目的に研究したものをまとめた研究報告書である。 全278頁。 （本人担当部分）3章：(P.150～P.258),4章：(P.259～P.277)</p>
24. [教育委員会研究成果報告書]平成15年度理科大好きプラン神戸市SP P(Science Partnership Program)事業実施報告書（平成15年度）	共	2004年3月	神戸市	<p>戎崎俊一、植松貞夫、川井和彦、高幣俊之、<u>平井尊士</u>、松崎太亮、隈田和男、青木典司、熊丸哲夫、吉田和正 （概要）日本の科学技術の進歩は、科学技術・理科教育が大きな役割を果たしている。神戸市においてもコンピュータが活用できる環境整備を進める上で、学校教育の中で、ICTを用いて「わかる授業の実現」を図るため、副教材として先進的なデジタル素材や教案のデータベース化、再利用の円滑な実施を促進する。マルチメディアの教室のあり方などを含めた効果的なモデル策定に資することを目的として本プロジェクトを実施した報告である。 （本人担当部分）研究会研究委員としてプロジェクトに参画し、フィールド研究および全体の章立て、策定モデルを策定する部分を担当。 （事務局）神戸市教育委員会事務局総務部庶務課情報企画係</p>
25. [地域行政報告書]加古川地域新エネルギービジョン報告書（平成15年度）	共	2004年3月	加古川市	<p>井内善臣、<u>平井尊士</u>、橋本清、松田安正、柳谷佐代子、高橋智恵美、飯田隆幸、廣田一弘、酒造正明、藤原崇、 （概要）加古川市では、地域新エネルギービジョン策定委員会を設置し、新エネルギーの導入、普及を図るための戦略計画としてのビジョン策定を検討するため、研究を行う報告書である。 （本人担当部分）策定委員会委員、選考会審査員、および策定検討委員会のアドバイザーとして参画し、全体の章立て、およびビジョンを策定する部分を担当。加えて概要版も作成。（事務局）加古川市企画部政策企画局政策企画課）、（オブザーバー）経済産業省近畿経済産業局資源エネルギー部エネルギー対策課、新エネルギー産業技術総合開発機構関西支部開発業務部振興課 全153頁</p>
26. [研究会発表]理科大好きやんねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用研究会の取り組みとがう集指導の工夫改善モデル策定に向けて	単	2004年12月	兵庫県立大学学園都市キャンパス学術研究会、（於兵庫県立大学）	前述と同様の内容
27. [教育委員会研究成果報告書]平成16年度理科大好きやんねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用研究会「神戸発デジタル未来像II」中間報告会報告書	共	2004年10月	神戸市	<p>コーディネータ：<u>平井尊士</u>、松崎太亮、吉田和正（事務局：神戸市教育委員会） 共著者：戎崎俊一、植松貞夫、川井和彦、高幣俊之、<u>平井尊士</u>、松崎太亮、青木典司、熊丸哲夫、吉田和正 （概要）目的については、タイトル同様である。 全79頁 本人担当部分：研究会研究委員としてプロジェクトに参画し、フィールド研究および全体の章立て、策定モデルを策定する部分を担当。</p>
28. [研究会発表]平成16年度「理科大好きやんねん！神戸教育用デジタルコンテンツ開発と活用」研究会中間報告会	共	2004年10月	神戸市教育委員会、（於神戸市総合教育センター）	<p>コーディネータ：◎<u>平井尊士</u>、現状報告：吉田和正、川井和彦、実践報告、久保田、山本、妹尾、パネリスト：戎崎俊一、植松貞夫、小川、州脇、青木典司 （概要）本研究会は、神戸市内の公立学校における</p>



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
29. [地域行政報告書]加古川文化振興ビジョン中間報告書(平成14年度)	共	2003年3月	加古川市	<p>教科教育において、ICTを用いて「わかる・楽しい授業」を図るため、平成15年度より産学官連携で進めている。神戸市の事例を基に、授業に即したデジタルコンテンツの活用モデルのあり方について研究に取り組んでいる。平成16年度は、具体的に、小中高등학교で、授業への適応方法を考察することで、授業カリキュラムはどのようなものか、「理科大好きやねん!神戸発デジタルコンテンツの未来像II」と称し、中間報告会を実施した。 本人担当: コーディネータ</p> <p>事務局(共著者): 加古川市文化振興ビジョン策定委員会(吉田実盛委員長)事務局(加古川市役所, <u>平井尊士(アドバイザー)</u>)</p> <p>(概要) 加古川市文化振興ビジョンは、加古川市市長から「加古川市文化振興ビジョン」策定の要請を受け、文化とは何か、どの範囲を考えるのか、現状の問題点は何か、そしてその対応と新たな文化創造について議論を重ね、中間報告として成果をだしたものである。 (本人担当部分) 全体の章立て、およびビジョンを策定するにあたり事務局アドバイザーとして担当。</p>
30. [研究会発表]理科教育におけるデジタ	単	2003年12月	兵庫県ニューメディア協議会「リテラシー教育を支える地域組織のありかたとシステムについて」研究会、(於兵庫県立大学)	<p>小学校の教科教育においては、様々な施策の下、ICT活用が広く提供されはじめています。我々は、理科・総合的な学習の時間教育を対象に、デジタルコンテンツの作成・流通・再利用を基本コンセプトに開発されたクライアントソフトウェア“ReKOS”を用いて、教員自らが作成した指導案の中でデジタルコンテンツを活用した現場での実証実験を進めている。本発表は、その途中報告である。</p>
31. [製品開発報告]次世代インターネットサーバ管理ツール名称:『Qloc[クロック]type-r with Qloc.engine』	共	2003年1月～2003.4	クワンティ株式会社	<p>監修: 植松貞夫、山本順一, 研究開発: <u>平井尊士</u>、クワンティ(株)</p> <p>(概要) Qloc type-R は、オリジナルドメインでの Web サイトの立ち上げ、メール環境の整備、無線によるセキュアな社内LAN の構築、ファイルのシェアリング、専門知識が必要なLINUX ベースのインターネットサービスを、サーバ運用経験者のみならず、誰でも簡単に、安全に運用できるソフトウェアツールです。研究成果については<a href="http://www.qloc.net/">http://www.qloc.net/</a>に掲載し、情報を提供している。 (本人担当部分) 産学連携の体制の確立および市場調査、モデルの構築およびシステム開発を担当。</p>
32. [製品開発報告]次世代インターネットサーバ管理ツール名称『Qloc [クロック]type-IDC Edition with Qloc.engine』	共	2003年1月～現在(継続)	クワンティ株式会社	<p>Qloc type-IDC Edition は、オリジナルドメインでの Web サイトの立ち上げ、メール環境の整備、無線によるセキュアな社内LAN の構築、ファイルのシェアリング、専門知識が必要だったLINUX ベースのインターネットサービスを、サーバ運用経験者のみならず、誰でも簡単に、安全に運用できるソフトウェアツールです。研究成果については<a href="http://www.qloc.net/">http://www.qloc.net/</a>に掲載し、情報を提供している。 本人担当部分: 産学連携の体制の確立および市場調査、モデルの構築およびシステム開発を担当。 監修: 植松貞夫、山本順一, 研究開発: <u>平井尊士</u>、クワンティ(株)</p>
33. [製品開発報告]Security Hoel c her/ Patch Catcher Qloc engine [クロック・エンジン]	共	2003年1月～現在(継続)	クワンティ株式会社	<p>監修: 植松貞夫、山本順一, 研究開発: <u>平井尊士</u>、クワンティ(株)</p> <p>(概要) Qlocエンジンは、OSのセキュリティホール・パッチ作業を簡素化・自動化し、管理者に負担をかけることなく安全に運用をサポートし、クラッカーからの攻撃に対する防御能力を高めます。高いセキュリティが求められるグループウェア、Eコマース、基幹業務連携の端末など、さまざまなWeb アプリケーションサービスを協力にサポートするツール製品である。研究成果については、<a href="http://www.qloc.net/">http://www.qloc.net/</a>に掲載し情報を提供している。 (本人担当部分) 産学連携の体制の確立および市場調査、モデルの構築およびシステム開発を担当。</p>
34. [製品開発報告]市町村側LAWAN 接続ソフト名称:『Qloc[クロック]LG WAN Connect 』	共	2003年1月～現在(継続)	クワンティ株式会社	<p>市町村のLWAN 接続に特化したサーバ用ソフトウェアセキュリティ・ホールを自動修復(パッチ適用)機能を持ち、セキュアなネットワーク環境を維持するソフトウェア製品である。 研究成果については、<a href="http://www.qloc.net/">http://www.qloc.net/</a>に掲載し情報を提供している。 本人担当部分: 産学連携の体制の確立および市場調査、モデルの構築およびシステム開発を担当。 監修: 植松貞夫、山本順一 研究開発: <u>平井尊士</u>、クワンティ(株) 〔製品化経緯〕 18. 市町村側LWAN 接続ソフト名称:『Qloc[クロック] LGWAN Connect 』</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
35. [書評・記事]インターネットを利用することで子供たちに危険はあるだろう	単	2002年9月	月刊ソフマップドットマガジン通巻85号 pp. 89～90	(監修：植松貞夫、山本順一) (研究開発：平井尊士、河野稔、クワンティ (株) (2002. 4-2002. 12) 協同で開発を行っているインターネットサーバ構築を通して、関連のあるセキュリティとインフラについて、また、先生と子供たちの関係について執筆。具体的な内容としては、インターネットセキュリティは万全か、子供たちの安全性、セキュリティ管理、子供たちのメリットは何かについて、実例を交えながら執筆を行った。
36. [製品開発報告]初等中等教育機関向けインターネットサーバ名称：『e-Elic' s[エリックス]』	共	2002年5月～現在(継続)	クワンティ株式会社	教育センターやIDC にインターネットサーバを置き、地域ネットワークを構築、小学校・中学校・高等学校が接続するイントラ&インターネットサーバ構築・運用管理するソフトウェア製品である。 本人担当部分：産学連携の体制の確立および市場調査、モデルの構築およびシステム開発を担当。 監修：植松貞夫、山本順一、研究開発：平井尊士、河野稔、柘植寛、クワンティ(株) (製品化・サービス2002. 5-2002. 12)
37. [製品開発報告]初等中等教育機関向けインターネットサーバ名称：『Center Elic' s[エリックス]』	共	2002年5月～2002. 12	クワンティ株式会社	
38. [地域行政報告書] 東加古川駅周辺地区拠点機能検討調査報告書(平成13年度)	共	2002年4月	加古川市	加古川市役所(企画調整室・都市計画部(都市計画課、東加古川駅周辺整備室))、渡辺東、笹倉邦啓、 <b>平井尊士</b> 、植松貞夫 (概要) 東加古川駅周辺拠点地区特定再開発事業における市拠点機能の位置づけおよび市拠点施設への導入機能の検討を行った。同時に周辺高等教育機関へのヒアリング調査も行った。全体の計画地の位置付けは基より、幼児教育研究センターの考え方や保育園・レカレント教育の考え方の大綱についても盛り込んだ。実際の施設整備基本方針についても、検討し、機能別面積表や、施設平面図、施設立面図等についても作成した。 全71頁 (本人担当部分) 全体の章立て、導入機能の調査、分析およびモデルの提案を担当。
39. [研究会発表]教育用画像に着目した学校LOM ベース：教材探索・システムへの連携(初等・中等機関向け教育システムの開発報告)	単	2002年2月	日本図書館研究会 (於大阪松陰女子大学)	図書館奉仕・情報システム研究グループ合同研究例会 本発表では、Media Library における教材利用の考察を行った。従来の教材および電子教材について、コンテンツの標準規格との検証を行った。
40. [研究会発表] 初等・中等教育機関におけるグループウェアの枠組み	共	2001年5月	日本図書館研究会、 (於大阪松陰女子大学)	<b>平井尊士</b> 、阿南昌子 図書館奉仕・情報システム研究グループ合同研究例会 (本人担当部分) システム構築をする際のモデルの構築を担当。
41. [地域行政報告書]加古川地理情報システム導入計画書(平成12年度)	共	2001年4月	加古川市	加古川市役所(企画調整室・都市計画部)、 <b>平井尊士</b> (概要) 本報告書は、地理情報システム事業化検討委員会で作成した「加古川市地理情報システム導入に関する報告書」地理情報システム(Geographic Information System) 庁内業務への有益性検討、GIS導入是非を踏まえ、加古川市における全庁統合型GIS導入に向けた計画を策定することを目的としたものである。 (本人担当部分) 各部署における現状と問題点をIT側面より観た分析を担当。
42. [研究会発表] 初等・中等機関向け教育システムの開発報告	共	2000年9月	日本図書館研究会 (於大阪松陰女子大学)	<b>平井尊士</b> 、植田道成、寺澤陽一郎 西田悦雄、志保田務 図書館奉仕・情報システム研究グループ合同研究例会 本人担当部分：現状のシステムにおける学習環境の調査、分析を担当。
43. [研究会発表]資料理論関係	共	2000年7月	日本図書館研究会、 (於大阪松陰女子大学)	志保田務、 <b>平井尊士</b> 、谷本達哉 図書館奉仕研究グループ研究会 本発表では、資料系3科目について具体的に関連性を図示し、考察した。 本人担当部分：資料系3科目の関連性より、新たな学習モデルの構築を担当。
44. [研究会発表] 「資料組織概説」	単	2000年3月	日本図書館研究会、 (於大阪松陰女子大学)	志保田務、 <b>平井尊士</b> 図書館奉仕研究グループ研究会 「資料組織概説」「資料組織演習」「学校図書館メディアの構成」授業展開について省令、科目の編成、テキスト、授業の方法について論を展開する。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
45. [書評・記事]Web 授業の創造21世紀の図書館情報学教育と情報環境	単	2000年11月	記録管理学会	本発表では、特に、テキストについて、趣旨？と内容を説明した。さらに授業の展開を考察した。本人担当部分：資料系3科目の現状と関連性についての考察を担当。
46. [研究会発表]学校図書館と	共	2000年1月	日本図書館研究会、（ 於大阪松陰女子大学）	倉橋英逸（他3名）執筆の学術書について、WBTをベースにした教育環境のあり方について、問題点等を示唆した。
47. [研究会発表]身体障害者と図書館における機器	単	1999年9月	私立大学図書館協会阪 神地区研究会、（於姫 路独協大学）	志保田務、 <b>平井尊士</b> 情報システム研究グループ研究会 本発表では、学校図書館の「情報化」について研究の切り口および方法論を提示した。 本人担当部分：全体の概念モデルの提案を担当。
48. [研究会発表]図書館を利用した情報教育の諸形態について	共	1999年9月	日本図書館研究会、（ 於大阪松陰女子大学）	近年、電子図書館や大学図書館における情報教育が研究対象、研究内容として取り上げられている。本発表は、主に身体障害者と図書館機器の利用方法と環境問題と図書館機器の保存・廃棄についての2側面から論じた。
49. [研究会発表]情報処理関連資格（システムアドミニストレータとサーチャー）と教育	共	1999年7月	日本図書館研究会、（ 於大阪松陰女子大学）	志保田務、中崎修一、 <b>平井尊士</b> 本発表では、現状の図書館情報学における「情報検索演習」と情報系科目「データベース演習」について比較研究した。 本人担当部分：実態調査、分析を担当。
50. [研究会発表]レファレンスツールのFD化とそれによる演習の試み	共	1999年5月	日本図書館研究会、（ 於大阪松陰女子大学）	中崎修一、 <b>平井尊士</b> 図書館奉仕・情報システム研究グループ合同研究会 大学において情報利用および情報機器、視聴覚機器の実用のための教科・科目の準備が必要である。特に大学ではあらゆる分野において情報処理関係科目が設置されている。 本発表では、情報活用能力の学習方法を検討した。具体的には「サーチャー2級」「初級システムアドミニストレータ」の資格取得を目的とした教育方法と現在の教育について検討を行った。 本人担当部分：学習方法のモデルの構築を担当。
51. [研究会発表]「学校図書館通論」の構造検討（1）	共	1999年11月	日本図書館研究会、（ 於大阪松陰女子大学）	図書館奉仕・情報システム研究グループ合同研究会 本発表では、『情報サービス』（学芸図書）のFDを使用しての利用方法について解説を行った。さらに[Microsoft Access 97]を利用した演習方法を作成マニュアルを基に具体的に提示した。
52. [研究会発表]情報処理関連資格（システムアドミニストレータとサーチャー）と教育	単	1999年10月	日本図書館研究会、（ 於大阪松陰女子大学）	志保田務、北克一、 <b>平井尊士</b> 図書館奉仕研究グループ研究会 本発表では、司書教諭課程について現状の省令科目についてのテキストの比較研究を実施した。 本人担当部分：現状の省令科目と関連テキストの調査及び分析を担当。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 高等教育機関におけるICT利活用と投資効果に関する研究	単	2014年4月～ 2017年3月（ 3ヵ年）	西日本電信電話株式会 社	各高等教育機関によって、ICT利活用および投資効果の考え方は様々である。本研究は、本学の利用者の利用・活用状況、利用・活用に応じた投資効果とその方向性を学院教育環境整備戦略委員会のメンバーと検討する。
2. レファレンス協同データベースによる図書館情報サービスの質向上に関する研究	共	2013年4月～ 2014. 3	武庫川女子大学科研費 学内奨励金（平成25年 度）	<b>平井尊士</b> 、設楽馨、川崎安子、河内鏡太郎 （概要）図書館のリニューアルとともに、本学のレファレンスサービスの概要について、国立国会図書館と連携するための基礎的調査
3. 地場作物を活用した実践力ある食育指導者の育成	共	2008年4月1 日～2009. 3	兵庫大学研究費	小林清美、和田早苗、増村美佐子、井尻吉信、 <b>平井尊士</b> 、細川敬三 （概要）健康科学部栄養マネジメント学科を中心とした兵庫県稲美町との食育に関する共同実践。 （本人担当部分）栄養統計による分析に係る部分を担当。
4. 「教科等におけるICT教材開発事業」事業研究費	単	2008年4月～ 2010. 3	兵庫県教育委員会、実 施委員会（加古川市教 育委員会）	（実施学校）加古川市市立小学校（社会科）、加古川市市立中学校（数学） （実施内容）上記学年（科目）におけるICT活用教育および研修
5. 平成19・20年度「神戸市分かる授業推進プラン事業」研究事業	単	2007年4月～ 2009. 3	神戸市教育委員会、実 施学校（神戸市立井吹 西小学校）	（概要）平成18・19年度に続き継続 （実施学校）神戸市立井吹西小学校 （実施内容）すべての学年にわたってのICT活用教育および研修
6. 平成19・20年度「神戸市分かる授業推進プラン事業」研究事業	単	2007年4月～ 2009. 3	神戸市教育委員会、実 施学校（神戸市立小東	（概要）平成18・19年度に続き継続 （実施学校）神戸市立小東山小学校

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
7. 平成19・20年度「神戸市分かる授業推進プラン事業」研究事業	単	2007年4月～2010.3	山小学校) 神戸市教育委員会、実施学校（神戸市立高羽小学校）	(実施教科) 平成19年度：第5学年「算数」、平成19年度職員研修、平成20年度：第6学年「算数」 (実施内容) 上記学年（科目）におけるICT活用教育および研修  (概要) 平成18・19年度に続き継続 (実施学校) 神戸市立高羽小学校 (実施教科) 平成19年度：第6学年「算数」、平成19年度夏期職員研修 (実施内容) 上記学年（科目）におけるICT活用教育および研修
8. 官学連携型ICTを活用した小学校理科（第5学年）における指導の効果に関する実証的調査研究	共	2006年7月～2007.3	『平成18年度サイエンス・パートナーシッププロジェクト（講座形学習活動（プランB））』文部科学省	<b>平井尊士</b> 、清水康敬（メディア教育開発センター） (全体概要) 教員のICTを活用した教育効果についての研究 (共同研究者) 研究代表組織：神戸市教育委員会
9. 平成18年度「神戸市分かる授業推進プラン事業」研究事業	単	2006年4月～2007.3	文部科学省委託事業（神戸市教育委員会）	(実施学校) 神戸市立東須磨小学校 (実施内容) すべての学年にわたってのICT活用教育および研修
10. 自作デジタルコンテンツの授業活用からIT活用における教育評価へ	共	2006年4月～2007.3	『平成18年度サイエンス・パートナーシッププロジェクト（教員研修）』文部科学省	研究代表組織：神戸市教育委員会 共同研究者： <b>平井尊士</b> 、植松貞夫（筑波大学）、清水康敬（メディア教育開発センター）、金子委利子（理化学研究所） (概要) 採択番教74、デジタル近哲を活用した現場での実証研究
11. 神戸先進的教育用デジタルコンテンツの開発・利用研修（サイエンスパートナーシッププログラム）	共	2005年4月～2006.3	『平成17年度サイエンス・パートナーシッププログラム』文部科学省	(共同研究者) 研究代表組織：神戸市教育委員会 共同研究者：戎崎俊一（理化学研究所）、川井和彦（理化学研究所）、 <b>平井尊士</b> 、植松貞夫（筑波大学）、清水康敬（メディア教育開発センター） (概要) 採択番号：教100
12. ITを活用した理科教育の為の学習指導法の工夫改善に資する官学協働型実践研究	共	2005年4月～2007.3(2ヵ年)	(独) メディア教育開発センター（文部科学省委託事業）	(研究者) <b>平井尊士</b> 、川井和彦（理化学研究所）、植松貞夫（筑波大学大学院） (協力) 神戸市教育委員会、（指導）清水康敬（メディア教育開発センター）（概要）文部科学省メディア教育開発センター・神戸市との共同研究。具体的にはタイトルの通り、ICTを活用した教科理科教育の活用方法と教育方法の研究。
13. IT活用時の教員の能力に関する研究	単	2005年4月～2007.3	(独) メディア教育開発センター委託研究事業	研究指導 清水康敬（理事長） (概要)（研究実施場所：神戸市教育委員会他）メディア教育開発センターと神戸市教育委員会の共同研究である。メディア教育開発センター・客員助教授として参加。ICT活用に対して教員の能力や資質に関して統計的手法を用い調査分析を実施。
14. 神戸先進的教育用デジタルコンテンツの開発・利用研修	共	2004年4月～2005.3	『平成16年度サイエンス・パートナーシッププログラム』文部科学省	(研究代表者)（組織）：神戸市教育委員会 (共同研究者) 戎崎俊一、川井和彦（理化学研究所）、前田保夫（兵庫県立大学）、 <b>平井尊士</b> 、植松貞夫（筑波大学）、阿形清和（理化学研究所） (全体概要) 採択番号：教72 (概要) 平成16年度は、理科授業において、実験や自然観察などの直接体験は、児童・生徒にとって必要不可欠の要素である。神戸市では、元来教員による理科教材の作成・研究が盛んであり、デジタル化しアーカイブ化することにより、授業を効果的に展開している。さらにデジタル教材を利用した、教科指導、研究の場としての教員研修および研究は、教員自らの情報リテラシー向上にも資することができる。
15. 「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」	単	2004年4月～2005.3	文部科学省、実施学校（神戸市立東須磨小学校）	(実施学校) 神戸市立東須磨小学校 (概要) 我が国は、その位置、地形、地質、気象等の条件から、災害が発生しやすい国土であり、様々な災害に対応できるよう、家庭や地域の関係団体・機関と連携しながら、学校における防災体制を充実することも課題となっている。このような状況に鑑み、神戸市においても地域ぐるみの学校安全推進モデル地域を指定し、地域との連携を重視した学校安全に関する各種取組みの実践を行い、その成果を全国に普及することを目的とし、実施する事業である。
16. 研究成果の普及啓発を行うために、デジタルデータに付与すべきメタデータの持ち方についての研究	共	2003年9月16日～2007.3(1期)	理化学研究所	(研究代表者) 戎崎俊一（理化学研究所） (共同研究者) 川井和彦（理化学研究所）、高幣俊之（理化学研究所）、 <b>平井尊士</b> 平成15年9月16日～平成19年3月31日（第一期：4ヵ年） 平成19年4月1日～現在（理化学研究所客員研究員として活動） (概要) 独立行政法人理化学研究所計算宇宙物理研

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
17. 先進的教育用デジタルコンテンツの開発と利用について	共	2003年4月～ 2004. 3	『平成15年度サイエンス・パートナーシッププログラム』文部科学省	研究室における研究テーマの1つが研究成果の普及啓発である。そのために各々の研究成果に対してデジタルデータに付与すべきメタデータの持ち方についての研究を実施。 (現在筆者は理化学研究所戎崎計算宇宙物理研究室・客員研究員を兼ねる) 代表者：神戸市教育委員会，研究者：戎崎俊一・川井和彦・高幣俊之（理化学研究所）， <b>平井尊士</b> ，植松貞夫（筑波大学） 採択番号：教50 (概要) 神戸市教育、初等中等教育機関において、理化教育の中で、コンピュータやネットワーク等のマルチメディア機器を用いて「わかる授業の実現」を図るため、先進的なデジタル素材や教案の開発と利用の円滑な実施およびそれを取り巻くマルチメディアの教室のあり方など効果的なモデル策定の検討を行う研究である。
18. 科学技術分野の研究成果に基づく学習資源の理科教材への効果的な活用手法と普及基盤に関する調査研究	共	2003年10月～ 2004. 3	「科学技術分野の研究成果に基づく学習資源の理科教材への効果的な活用手法と普及基盤に関する調査研究」文部科学省委託事業（技術研究指導）	鈴木克明（岩手県立大学），向後千春（早稲田大学）， <b>平井尊士</b> ，妻木貴雄（筑波大学付属高等学校），金子英樹（神奈川県立須賀高等学校），阿部敏視（北海道江別高等学校），高橋尚紀（北海道理科教育センター），川井和彦（理化学研究所），高幣俊之（理化学研究所） (概要) 本委託事業は、文部科学省が平成14年度より推進している、科学技術・理科、数学教育を充実させるための「科学技術・理科大好きプラン」一環であるサイエンスパートナーシッププログラム事業の一部として実施されるものであり、科学技術・理科教育用学習資源のあるべき仕様を提示することを、目的とした委託授業である。
19. 加古川市における情報環境基盤整備を通しての情報検索論の基礎的研究	共	2002年9月～ 2003. 3	『平成13年度兵庫大学情報処理センター研究プロジェクト』，兵庫大学研究費	<b>平井尊士</b> ，志保田務（桃山学院大学），植松貞夫（筑波大学），河野稔，西田悦雄 (概要) 筆者は、2000年度より、産学共同でメディアセンターソリューションのソフト開発と情報教育についての実践研究を進めている。特に、加古川市における情報環境の整備に関する技術的な支援は、個人研究目的だけでなく、兵庫大学として、地域貢献への大きなメリットの1つになると考える。そこで本研は、“情報検索の基礎理論”の基礎研究を行う。 (本人担当部分) 研究の統括および既に産学共同で開発を継続しているメディアソリューションの現状について、調査、分析を担当。
20. 兵庫大学学内情報教育システムリプレースに向けての調査研究	共	2002年6月～ 2003. 3	『平成13年度兵庫大学情報処理センター研究プロジェクト』，兵庫大学学内研究費	河野稔， <b>平井尊士</b> (概要) 大学全体の情報基盤整備は、十分な議論が必要である。全学リプレースの実施に際し、安易に計算機をリプレースするのではなく、内規・ガイドラインを再検討し、今後の大学の情報教育の方針に対応できるよう、教育研究システムの管理運営するための調査研究が目的である。 (本人担当部分) 全体計画および市場動向技術等の調査、分析を担当。
21. 図書館・情報学における資料・メディアに関する基礎研究(1)：メディア・マルチメディア教育における諸問題の一考察	共	2001年6月～ 2002. 3	『平成12年度兵庫大学情報処理センター研究プロジェクト』，兵庫大学研究費	<b>平井尊士</b> ，志保田務（桃山学院大学），田中康仁，佐藤毅彦（甲南女子大学），谷本達哉（羽衣国際大学） (概要) 本研究は、メディア・資料の概念研究を展開する。最先端の技術だけでなく、CD-ROMを中心として普及しはじめたマルチメディア技術に関心をもたせ、利用方法の獲得、情報メディアの習熟について追求する。マルチメディア・メディア・資料の定義を再度考察することが主な目的である。 (本人担当部分) 本研究の統括および本研究をベースにした著書『資料・ソディア総論』（学芸図書）の編集および執筆を担当。
22. 通信可能帯域検出による通信トラヒックの制御通信方式の基礎研究	共	2000年9月～ 2001. 9	『平成11年度兵庫大学情報処理センター研究プロジェクト』，兵庫大学研究費	西田悦雄，日比野靖（北陸先端科学技術大学院大学），丹康雄（北陸先端科学技術大学院大学）， <b>平井尊士</b> ，河野稔 (概要) 本研究は、RED のルータ待ち列長の計算に基づく網の転送状態を送信元のクライアントにフィードバック、クライアントの呼発生、制御方式についてシミュレーションを行うことを目的とする。 (本人担当部分) 計算機によるシミュレーションを担当。
23. 学校・大学図書館における授業支援「情報システム」化に関する基礎研究(1)	単	2000年9月～ 2001. 3	『平成11年度兵庫大学情報処理センター研究プロジェクト』，兵庫大学研究費	(概要) 本研究は、図書館情報学（調査研究の考察）と教育学（教育方法研究）の両面からの技法を用いて調査・統計・評価を行った。さらに現状の図書館を利用して総合学習を効率よく遂行するため、標準的な演習方法を提示した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
25. 平成18年度「神戸市分かる授業推進プラン事業」研究事業	共          単		『平成15年度産学連携イノベーション創出事業費補助金(独創的革新的技術開発研究提案公募制度)』文部科学省   神戸市教育委員会、実施学校(神戸市立井吹西小学校)	(研究代表者)長岡満夫(NTTデータ) (共同研究者(申請時))片山智之・仁田光治・朝水佳代子、植松貞夫(筑波大学)、戎崎俊一・川井和彦・高幣俊之(理化学研究所)、 <u>平井尊士</u> 、隈田和男・吉田和正・青木典司・松崎太亮(神戸市) (採択番号)15104 (概要)教員による授業に必要な素材やコンテンツの登録・検索・指導案の作成等の利用面やセキュリティ確保。コンテンツの著作権の保護、教員の異動などの運用面も考慮した研究開発である。VPN技術、認証技術をも用いた新しい概念のネットワーク型データ流通システムを構築することが必要である。本事業は、最先端の研究成果を反映したデジタル教材と各教育機関の保持する独創性や地域性に富んだデジタル教材の両方を平易に蓄積でき、ネットワークを介し、共同利用および再利用できる費用対効果の高い共同利用型のデータベース管理システムの仕組みについての開発について取り組む。  (実施学校)神戸市立井吹西小学校 (実施内容)すべての学年にわたってのICT活用教育および研修

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年7月～2017年3月	兵庫県稲美町施設指定管理者候補者選定委員会委員
2. 2016年3月1日～2017年3月31日	神戸市マイナンバー支援コンサル決定のための選考委員及び委員長
3. 2015年6月18日～現在	神戸創生戦略プロジェクトチーム委員(教員・IT部門)
4. 2015年4月1日～現在	放送大学客員准教授(主任講師)(15)
5. 2015年1月1日～現在	真言宗御室派宝珠寺住職(代表役員)
6. 2014年4月1日～2014年7月31日	兵庫県稲美町町立学校等教育用コンピュータシステム構築業者選定委員会委員・委員長
7. 2014年4月1日～現在	学校評議委員(神戸市立桂木小学校)(平成28年3月31日まで)
8. 2014年4月～2015年3月	神戸市社会保障・番号制度対応支援業務(公募型プロポーザル)委員及び委員長(学識経験者)(平成27年3月まで)
9. 2014年4月～現在	兵庫県稲美町図書館協議会委員・委員長(町立)(平成28年3月31日まで)
10. 2013年5月～2014年3月31日	兵庫県稲美町立教育施設指定管理者選定等委員会委員(平成26年3月31日まで)
11. 2013年4月～2014年3月31日	兵庫県稲美町稲美北中学校大規模改造検討委員会委員及び委員長
12. 2012年8月～2013年3月	兵庫県稲美町中学校給食外部検討委員及び委員長(学識経験者)
13. 2012年7月～2013年3月31日	(地)加古川市民病院機構 新統合病院建設整備等懸賞委員会委員
14. 2012年6月～2013年3月	兵庫県稲美町中学校給食内部検討委員及び委員長(学識経験者)
15. 2012年6月～2013年3月	兵庫県稲美町教育施設指定管理者候補者選定委員及び委員長(学識経験者)
16. 2012年4月～2012年3月	次世代のこどもを育む市民会議 委員(神戸市)
17. 2011年7月～2012年3月	兵庫県稲美町中学校給食システム業者選定委員及び委員長(学識経験者)
18. 2011年6月～2012年3月	兵庫県稲美町立天満東小学校大規模改修検討委員及び委員長(学識経験者)
19. 2011年4月1日～2015年3月31日	放送大学客員准教授(主任講師)(12)
20. 2011年4月～2014年3月	兵庫県稲美町図書館協議会 委員及び委員長(学識経験者)(NPO法人)
21. 2011年4月～2014年3月	地方独立行政法人加古川市民病院機構評価委員会委員(学識経験者)
22. 2011年4月～現在	加古川市指定管理者選定等委員会委員
23. 2011年4月～現在	兵庫大学附属須磨幼稚園評議員
24. 2011年4月～現在	兵庫県明石市教育研究所スーパーアドバイザー
25. 2011年4月～2014年3月	神戸市立桂木小学校 学校評議員
26. 2011年3月～2012年3月	兵庫県稲美町立図書館 図書館電算システム選定委員及び委員長(学識経験者)
27. 2007年10月～2008年3月	神戸市情報教育基盤サービスの調達について提案審査委員(神戸市教育委員会)
28. 2006年8月～2007年3月	平成18年度「サイエンスパートナーシッププロジェクト(教員研修)」事業推進委員及び分担研究者(実施機関:神戸市教育委員会)(文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課)
29. 2006年8月～2007年3月	神戸市文書管理・電子決済システムの構築に関する調達に関する提案審査委員(神戸市教育委員会)
30. 2006年6月～2007年3月	平成18年度「サイエンスパートナーシッププロジェクト(講座型学習活動B)」事業推進委員及び分担研究者(実施機関:神戸市教育委員会)(文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課)
31. 2006年4月～2007年3月	新ひょうご図書館情報ネットワークシステムの調達に関する提案審査委員会委員(兵庫県立図書館)
32. 2006年3月	兵庫県ホームページ コンテンツ管理システムの導入に伴うシステムの再構成を含めたりニューアル事業 企画提案コンペ審査委員(兵庫県県民政策部知事室広報課)
33. 2006年10月～2007年3月	教育の情報化の推進に資する研究(ICTを活用した指導の効果)調査委員(文部科学省委託:メディア教育開発センター)
34. 2005年4月	兵庫県ホームページ「ひょうご夢情報」企画提案コンペ審査委員(兵庫県広報課広域広報係)
35. 2005年4月～2006年3月	平成17年度「サイエンスパートナーシッププログラム」事業推進委員及び分担研究者(実施機関:神戸市教育委員会)(文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課)

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
36. 2005年4月～2007年3月	文部科学省メディア教育開発センター研究開発部 客員助教授
37. 2005年2月～2005年3月	神戸市教育ネットワークシステムの保守・運用及び改修事業者選考委員会委員（神戸市教育委員会）
38. 2005年10月～2006年3月	教育の情報化の推進に資する研究（IT活用による学力向上に関する授業の実施と評価）調査委員（文部科学省委託：メディア教育開発センター）
39. 2005年1月～2006年3月	ユニバーサルデザインに配慮したホームページ作成ガイドラインに係るアドバイザー（兵庫県県民政策部知事室広報課）
40. 2004年9月～2005年3月	神戸市防災学習連携促進協議会委員（神戸市教育委員会）（平成17年3月31日まで）
41. 2004年8月～2005年2月	加古川市地域新エネルギービジョン策定業務（重点化調査）に関するアドバイザー（加古川市企画部）
42. 2004年3月～2005年3月	加古川市地域新エネルギービジョン策定委員会委員（加古川市企画部）
43. 2004年10月～2005年3月	ITを活用した教科指導のための改善のための調査研究委員（文部科学省委託：日本教育工学会ITを活用した教科指導のための調査研究チーム（代表：清水康敬））
44. 2003年9月～2004年3月	科学技術・理科教育用デジタル教材規格研究会委員（文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課）
45. 2003年9月～2006年3月	平成15年度産学連携イノベーション創出事業費補助金（独創的革新的技術開発研究提案公募制度）「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォームの研究」研究会委員及び分担研究者（文部科学省）
46. 2003年7月～2004年3月	加古川市地域新エネルギービジョン策定検討委員会アドバイザー（加古川市企画部）
47. 2003年6月～現在	兵庫ニューメディア推進協議会委員（兵庫県企画管理部企画調整局）
48. 2003年6月～2004年3月	平成15年度理科大好きプラン「サイエンスパートナーシッププログラム」事業推進委員及び分担研究者
49. 2003年10月	加古川市地域新エネルギービジョン策定等業務に係る選考会審査員（加古川市企画部）
50. 2003年10月～2004年3月	加古川市地域新エネルギービジョン策定委員会委員（加古川市企画部）
51. 2003年10月～2004年3月	「科学技術分野の研究成果に基づく学習資源の理科教材への効果的な活用手法と普及基盤に関する調査研究」委託事業における教材開発協議会委員（文部科学省（担当：株式会社三菱総合研究所安全科学技術本部 安全政策研究部））
52. 2002年7月～2003年6月	経済産業省 先進学習基盤協議会（ALIC）コンテンツ部会会員および学校LOM 利用促進WG座長
53. 2002年4月～2003年3月	加古川市文化振興ビジョン策定に関するアドバイザー
54. 2001年3月～2002年3月	加古川市東加古川駅周辺整備における情報拠点施設計画の作成に関するアドバイザー
55. 2000年8月～現在	クワンティ株式会社 研究顧問（社外取締役）（特許関係）
56. 2000年4月～現在	放送大学通信指導及び単位認定委員
57. 2000年11月～2001年3月	加古川市地理情報システム構築アドバイザー
58. 1994年4月1日から2014年12月31日	真言宗御室派宝珠寺副住職
59. 1994年4月～現在	真言宗御室派青年仏教教師会会員 AACE
61. ～現在	日本図書館協会会員・教育部会会員
62. ～現在	情報科学技術協会
63. ～現在	日本図書館情報学会会員
64. ～現在	情報処理学会会員
65. ～現在	情報コミュニケーション学会会員・理事
66. ～現在	関西教育学会会員
67. ～現在	日本教育工学会会員